

— CSR報告書 2017



豊かな未来へ 技術のメッセージ

若築建設



CONTENTS

ごあいさつ..... 2

若築建設について 3

TOPICS

わかちく史料館が企画展を開催 5

女性職員を対象とした現場見学会を開催 5

2016年度完成工事紹介 6

特集1 海外工事の紹介 7

南太平洋の島国・サモアで港湾工事を施工

特集2 技術研究所活動報告 11

マネジメント体制

コーポレート・ガバナンス 15

品質・環境マネジメントシステム 17

安全マネジメントシステム 19

災害に備えて 20

環境活動

環境データ 21

技術報告

佐伯バイオマス発電所の建設 23

小水力発電所の建設 24

風力発電所の建設 25

CIMの3次元モデル活用 26

グラブ浚渫時の汚濁拡散防止技術 27

若鷺丸の環境性能実績 28

特集3 仕事と育児の両立について 29

女性土木技術者の働く現場 33

社会活動

いきいき職場の創造 37

地域社会とともに 39

全国のCleanup活動 42

報告書について

対象組織 若築建設株式会社

対象範囲 若築建設株式会社の事業活動

対象年度 2016年度（2016年4月1日～2017年3月31日）
ただし、一部2017年8月までの情報も含みます。

発行 2017年9月

参考資料 「環境報告ガイドライン（2012年度版）」環境省

作成部署およびお問い合わせ先

この報告書に関するご意見・お問い合わせは、下記で承っております。

総合システム部

TEL.03-3492-0280 FAX.03-3490-1019

ごあいさつ

技術と実績を積み重ね、 社会への責任と役割を果たす

今年7月上旬に福岡県と大分県を中心とする九州北部で発生した集中豪雨では、河川の氾濫や大規模な土砂崩れが起こり、多数の死傷者、家屋損壊などが発生し、甚大な被害をもたらしました。その他、鳥取県、新潟県、秋田県などでも集中豪雨の影響により、多くの方々が被災しました。最近では、このような自然災害が起こることは珍しいことではなく、いつでも、どこでも私たちの生活を脅かす可能性があることを、自覚しなければなりません。

このような状況において、当社は、社会の基盤を造り、そして守るという重要な役割を担う建設会社として、国土保全・防災事業に積極的に取り組み、「社会に貢献する」という「責任と役割」をしっかりと果たしてまいります。

当社は、今年度が中期経営計画(2015年度～2017年度)の最終年度となりますが、目標達成に向け全社一丸となり邁進しています。その中において、当社が継続的に成長し、発展を遂げていくためには、取り巻く環境の変化に機敏に対応できる組織づくりと人づくりを急ぐと共に、経営の安定化を図るため、ふたつのテーマを掲げて取り組んでいます。

ひとつ目は「収益基盤の多様化」です。主に営業部門が中心となりますが、現在当社を支えている公共事業部門は堅持しながら、多方面にわたる民間事業部門の比率を上げ、バランスのとれた受注による収益基盤の多様化を進めています。民間事業では、特に再生可能エネルギー分野に力を入れて取り組んでいます。現在も風力、小水力、バイオマス発電を手掛けておりますが、引き続きこの分野を強化していきます。

ふたつ目は「安全と品質の徹底」です。主に工事部門が中心となりますが、一人一人が安全の徹底と質の高い仕事を繰り返し続けていくことが、顧客の信頼をより高めることとなり、次の仕事につなげてゆく大きな原動力となると考えています。

この2つを経営の安定化のための2本の柱と位置付けて、全社をあげて取り組んでいるところです。

当社の技術を取りまとめ発行し、発表会を開催している「技術年報」は、昨年25回目となり、報告内容は多岐にわたり、様々な研究開発や現場施工での工夫が詰まったものとなりました。このような積み重ねが技術の蓄積となり、現場の原動力となると考えています。

また、国土交通省では、ICT(情報通信技術)を建設現場に導入することによって、建設生産システム全体の生産性向上を図り、魅力ある建設現場を目指す取組である「i-Construction」を進めています。当社でも、さまざまな工事でCIM(Construction Information Modeling / Management)を活用し、ライフサイクル全体を見通した情報マネジメントと、3次元モデルを活用した情報の見える化に取り組んでいます。

わかちく史料館では、毎年、近隣地域にある博物館や地域の皆さまのご協力をいただき企画展を開催しています。昨年度の企画展には、大勢の一般の方にご来館いただき、地域の皆さまの交流の場としてもご好評をいただいております。当社は今後も、地域の皆さまとの交流を通して社会貢献活動を継続してまいります。

本報告書は、CSR活動を中心とした当社の2016年度の活動実績を取りまとめたものです。是非、ご一読ください。

2017年9月



代表取締役社長

五百蔵良平

若築建設について

創業 ~地域の発展をめざして~

明治時代初期の北九州は、石炭埋蔵量の豊富な筑豊炭田を擁するものの、石炭など物資の輸送問題が地域発展の障害となっていました。

当社は、1890年、地域の発展をめざす地元の有志や東京、大阪の著名な事業家の方たちが発起人となって、海上交通の要衝である洞海湾とその周辺運河の改良を目的に立ち上げたものです。工事費用は港や運河を利用する船舶から使用料を徴収して賄うという条件で、福岡県知事の許可を受け、改良工事に着手しました。そして、徐々に港の整備が進み、1901年には、八幡村（現・北九州市八幡東区）に官営八幡製鉄所が開設されたことを契機に、洞海湾を中心とする地域は、北九州工業地帯として発展していきました。



これは明治時代に洞海湾開発の測量基準点として設けられたものです。

本店に残る洞海湾開発の基準点

会社概要

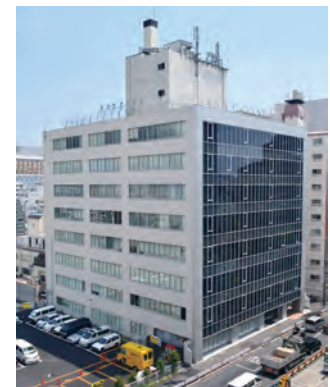
- 商 号 若築建設株式会社 (WAKACHIKU CONSTRUCTION CO.,LTD)
- 創 立 明治23年(1890年)5月23日
- 代 表 者 代表取締役社長 五百蔵良平
- 資 本 金 113億7千4百万円
- 株式上場 東京証券取引所第一部
- 従業員数 654名(2017年3月31日現在)
- 事業内容 国内・国外建設工事、海洋開発、地域・都市開発、環境整備・保全およびその他建設に関する事業、建設コンサルティング、マネジメント事業、不動産事業



本店

事業所一覧

本 店	〒808-0024 北九州市若松区浜町一丁目4番7号	TEL (093)761-1331
東京本社	〒153-0064 東京都目黒区下目黒二丁目23番18号	TEL (03)3492-0271
東北支店	〒980-0014 仙台市青葉区本町二丁目10番28号	TEL (022)221-4325
千葉支店	〒260-0027 千葉市中央区新田町4番22号	TEL (043)242-2245
東京支店	〒153-0064 東京都目黒区下目黒二丁目23番18号	TEL (03)3492-0811
横浜支店	〒231-0015 横浜市中区尾上町一丁目6番	TEL (045)662-0814
北陸支店	〒950-0087 新潟市中央区東大通一丁目2番23号	TEL (025)241-1242
名古屋支店	〒460-0003 名古屋市中区錦一丁目11番20号	TEL (052)201-5321
大阪支店	〒541-0056 大阪市中央区久太郎町二丁目2番8号	TEL (06)6261-6736
中国支店	〒730-0031 広島市中区紙屋町一丁目3番2号	TEL (082)248-1810
四国支店	〒760-0071 高松市藤塚町一丁目2番1号	TEL (087)833-7347
九州支店	〒808-0024 北九州市若松区浜町一丁目4番7号	TEL (093)752-3510
福岡支店	〒812-0013 福岡市博多区博多駅東一丁目13番9号	TEL (092)483-5307
海外事業所	ジャカルタ事務所(インドネシア共和国) コロンボ事務所(スリランカ民主主義共和国) ハノイ事務所(ベトナム社会主義共和国) ディリ事務所(東ティモール民主共和国) マレー事務所(モルディブ共和国)	
わかちく史料館	〒808-0024 北九州市若松区浜町一丁目4番7号 当社本店3階 開館時間 午前10時～午後4時 休 館 日 毎週月曜日・祝祭日・年末年始 入 館 料 無料	TEL (093)752-1707



東京本社



わかちく史料館



2017年度社長方針

経営計画の着実な達成と、創立130年を見据え、新たな飛躍に向けた中期経営計画の策定を通じ、更なる事業基盤の強化を図る。

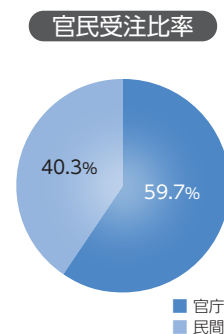
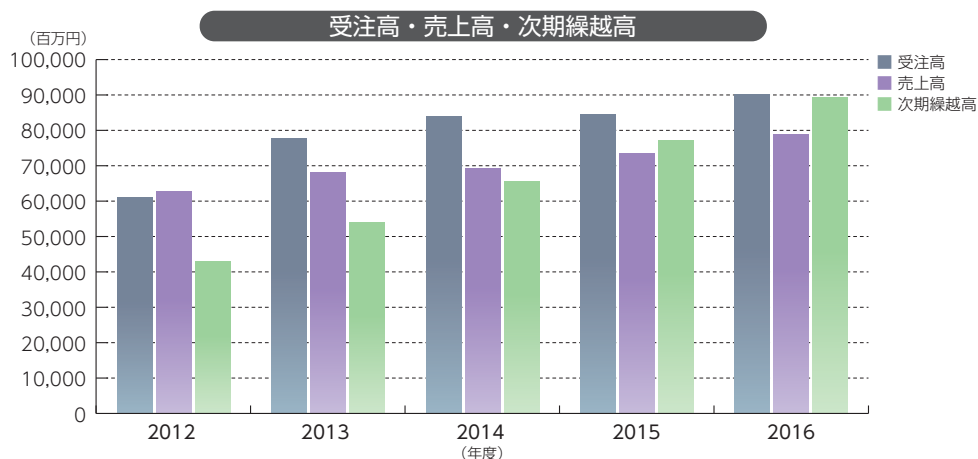
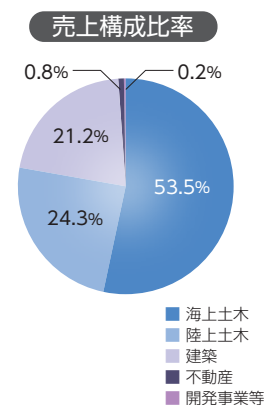
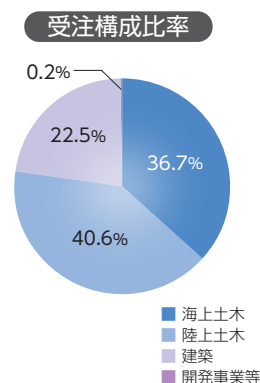
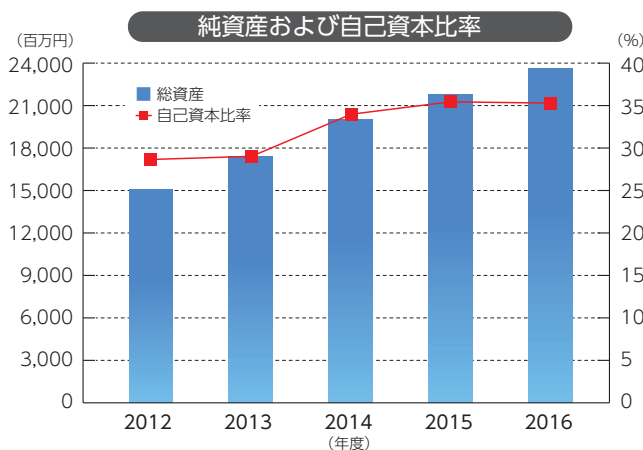
社長方針 各施策

- 「品質と安全の徹底」を土台とし、顧客の信頼をより一層高める
- 官庁の海上土木を柱としながら、民間営業を強化し収益基盤の多様化を図る
- 東南アジア地域を核とした海外事業の強化を図る
- 競争力を高めるため技術提案力の強化を図る
- 人材確保・育成の強化を図る
- 業務効率の改善、財務体質の強化を図る
- 効果あるリスクアセスメントを実践する
- 防災活動、環境保全活動、地域社会との交流を推進し、社会貢献に努める

財務ハイライト

(単位：百万円)

年 度	2012	2013	2014	2015	2016
受注高	61,435	77,507	83,775	84,284	90,160
売上高	62,548	68,097	69,001	73,428	78,944
次期繰越高	42,625	53,026	65,873	77,875	89,504
営業利益	1,187	1,899	2,093	2,247	2,542
経常利益	811	1,730	1,930	2,107	2,423
純利益	526	1,600	2,084	1,939	2,279
総資産	53,336	60,004	59,192	61,598	67,081
純資産	15,044	17,432	19,986	21,795	23,627
自己資本比率	28.2%	29.1%	33.8%	35.4%	35.2%



わかちく史料館が企画展を開催

わかちく史料館では、2017年3月に企画展「北九州の風景～ものづくりの街・企業博物館～」を開催しました。

北九州は明治以降、門司港・洞海湾の開発および九州鉄道の開通、官営八幡製鐵所の誘致等で、日本の近代化を支え、現在でも日本を代表する企業の拠点となっています。

今回は北九州で発展を遂げてきた企業が運営し、北九州の産業観光コースに組み込まれている各博物館の概要をパネル・写真等で紹介いたしました。企画展開催においては、6社で構成する北九州地区企業博物館ネットワーク

の各社にご協力をいただきました。

また、わかちく史料館は今回の企画展に併わせて、新しい常設展示物を設置しました。これはタッチパネルにて、土木工事や洞海湾の歴史をクイズ形式で学ぶことができるように工夫され、楽しむことができるものになっています。

企画展開催期間中には、洞海湾クルーズがイベント会社により企画され、その後、わかちく史料館へ足を運んでいただいたお客様もいらっしゃいました。今後も地域に根ざした活動を行ってまいります。



企画展の様様



新しい展示物

女性職員を対象とした現場見学会を開催

当社は、2016年9月1日、2日に女性職員を対象とした現場見学会を開催しました。これは、女性活躍推進への取り組みの一環として、当社が2014年に新造しましたハイブリッド式浚渫機を搭載した作業船「若鷺丸」が従事する工事現場などを見学し、また女性同士の意見交換会を行うことにより、今後さらに能力を発揮させ、活躍する契機となることを期待し開催しました。

今回見学した現場は、9月1日が国土交通省四国地方整備局発注の東予港中央地区岸壁（-7.5m）築造等工事（施工場所：愛媛県西条市）、9月2日が撫養港海岸桑島

瀬戸地区堤防改良工事（その5）（施工場所：徳島県鳴門市）であり、東予港において若鷺丸が従事していました。

当社の試みには発注者からも賛同をいただき、東予港、撫養港それぞれの現場において、整備事業の概要説明をしていただきました。

参加した女性職員からは、「若鷺丸の浚渫作業時は、想像以上に揺れが少ないと思った」「現場はすごく整理整頓されていたが、安全通路は行き先別に色分けすると良いと思う」などの感想や意見がありました。



東予港にて「若鷺丸」の前で集合写真



撫養港にて現場説明の様子

2016年度完成工事紹介

那覇空港滑走路増設護岸N工区築造工事

【発注者：内閣府】

那覇空港は、2016年度に乗降客数が約1,966万人となり、滑走路1本の空港としては国内で2番目に利用頻度が高い空港です。本事業は、将来の需要増に対応するため、那覇空港沖合に2本目の滑走路を増設するものです。

本工事は、那覇空港滑走路増設事業における埋立護岸N工区、AN工区の基礎工、本体工、被覆・根固工、上部工、消波工、裏込工および雑工を施工しました。工事場所は外洋に面しており、事業全体の中でも一番海象条件が悪く、度重なる台風・冬季波浪の影響により、工事が難航しましたが、3年という長い工期の中で、無事完成することができました。

台場一丁目船揚場整備工事

【発注者：東京都】

お台場は、2020年の東京オリンピック開催に向け、更なる大型複合施設や大型ホテルの建設が予定されている大都市東京でも有数の観光地域です。本工事は、東京港における更なる水辺の活性化と賑わいを創出するため、観光ツールの一つである水陸両用バスの運行に必要な船揚場（スロープ）をお台場海浜公園内において建設するものです。

船揚場の構造は幅員8m、勾配9%、斜路水中部は張りブロック、気中部は舗装コンクリート、基礎部は捨石マウンド基礎となっています。現況地盤は軟弱な有楽町粘土層の堆積であることから高圧噴射攪拌による地盤改良を施しました。

木曽川新濃尾大橋右岸下部工事

【発注者：国土交通省】

本工事は、岐阜県羽島市にある濃尾大橋の渋滞緩和、愛知、岐阜両地域の交流促進、連携強化および防災ネットワークの強化を目的として、木曽川に新たな橋梁を建設する事業のうち、右岸側橋台1基および護岸整備を行う工事です。

河川内工事であるため渇水期の施工で、天然記念物イタセンパラ（絶滅危惧種1A類）が生息しているため、環境に配慮するとともに工期短縮を図る必要がありました。工事は障害物撤去や湧水対策を行いながらも工期内に無事完成することができました。

和歌山岬道路平井トンネル（大阪側）工事

【発注者：国土交通省】

大阪府と和歌山県の境を結ぶ国道26号には異常気象時通行規制区間が設定され、大雨などによる通行止めが発生するなど脆弱です。和歌山岬道路は大阪と和歌山を結ぶ地域高規格整備区間に指定された「第二阪和国道」の一部で延長7.2kmあります。

本工事は、平井トンネル（上り線：長さ552m）の内、大阪側の143mのトンネル工事と、14.9mの道路改良工事を行うものです。トンネル貫通部は弾性波探査およびボーリング調査がなく、詳細な地層構成が不明でした。そのため追加のボーリング調査を行い、天端崩落の危険性が高いことから、小口径長尺鋼管フォアパイリングを実施し掘削作業を行いました。

株式会社聖人堀鐵工所移転新築工事

【発注者：株式会社聖人堀鐵工所】

東日本大震災で最も多くの犠牲者を出した石巻市の中でも一番被害の大きかったのが、本工場の施工場所である南浜町です。聖人堀鐵工所は造船所として、震災以降も被災した工場で営業を続けていました。しかし、今回、河川沿いの防潮堤構築計画に伴い、災害復興支援特別基金によって移転することになりました。

建物は鉄骨造で4棟あり、1棟が事務所で他3棟は工場という構成です。マリントラベリフトといわれる大型機械で船を運び、河川への揚げ降ろしを行うため、建屋には特大シャッターが設けられ場内はコンクリート舗装となりました。

ひだまりⅡ号館有料老人ホーム工事

【発注者：株式会社健康サポートセンター】

北九州市の折尾駅西側は、九州女子大をはじめ多数の学校があり学園都市として有名です。ひだまりⅡ号館は、新旧の住宅が立ち並び閑静な住宅街に位置し、在宅支援に力を注ぎ、地域密着、多機能型福祉拠点とする運営理念のもと、地元密着の愛される老人ホームを目指しています。

建物は鉄骨造4階建て、内部は1階にデイサービス・事務室、2～4階は居室（40室：終身利用型）・スタッフルームを設けた配置となっています。外壁はⅠ号館と同様に白色を基準とした落ち着いた清潔感のあるタイル張りとなっています。

海上土木



陸上土木



建築





海外工事の紹介 ～南太平洋の島国・サモアで港湾工事を施工～

[アピア港安全向上計画]

当社は、東京から約7,500km離れた南太平洋(オセアニア)のほぼ中央に位置する島国・サモア独立国において、現在、港湾工事に携わっています。当社としましては、サモアでの初の工事となり、日本人、インドネシア人、フィリピン人、現地スタッフなど、さまざまな国の出身者が協力し合い、プロジェクト完成のために邁進しています。

当社が施工している港湾工事は、日本のODA(政府開発援助)による、サモアの首都・アピアにあるアピア港の改修および新設工事です。

アピア港は、元々天然の良港ではなく、雨季の時期は波の静穏が保たれないような場所であり、約50年前にニュージーランドの援助により180mの岸壁が整備されました。その後、岸壁



コンテナヤードのコンクリート梁およびスラブの補修

の老朽化に対応するため、日本のODAにより、165mの新しい岸壁が整備されました。また、船舶の入出港の際に波の影響を軽減するために、防波堤が整備されました。アピア港は、現在、年間約50万トンの貨物を扱い、大型旅客船が寄港する同国唯一の国際港湾であり、外国貿易の大部分を取り扱うもっとも重要な港湾ですが、岸壁の老朽化や船舶の大型化を背景として、船舶の入出港、離着岸および係留時の安全性が脅かされている状況にあります。今回のODAでは、岸壁の延長およびコンテナヤードの補修をメインとした港湾施設の改修やタグボートの修復を行います。これにより、安全で効率的な港湾機能が確保され、大きなコンテナ船やクルーズ船が入出港できるようになり、サモアの経済成長に貢献することになります。



コンテナ船



6月末時点の進捗は約30%程度になり、岸壁およびコンテナヤードの舗装修復、コンテナヤードのコンクリート梁およびスラブの補修が完了し、岸壁の延長およびコンテナヤードの拡幅作業に入りました。岸壁の延長およびコンテナヤードの拡幅にあたり、約42mの鋼管杭350本をベトナムからチャーター船で輸入し基礎を構築しています。

しかしながら鋼管杭の支持層の深さにバラつきがあり、急に深くなるっている箇所が多々発見されました。当初の延長42mでは足りない鋼管杭は急遽他の新しい杭を切断し、継杭溶接、溶接検査、再打設を行い次工程が遅れないよう対応しているところです。

現地では溶接検査を行う工事などは無く、オーストラリアから検査官を呼び事前に現地溶接工の技能試験を行い、継杭溶接を行っています。現在鋼管打設は4割程度ですので今後のことを考慮し日本から溶接の職人来てもらい、作業時間の短縮を図ることも検討しています。

鋼管杭の打設が終了したら、鋼管にせん断キーを溶接し、プレキャストで製作したパイルヘッドを設置し、モルタルを注入



パイルヘッドの設置

一体化させる工程があります。通常、パイルヘッドは、鋼管杭に支保工を組み、コンクリートを打設するという作業ですが、当社は、プレキャストで製作したパイルヘッドを設置しました。このような施工をするのは初めてのことでしたが、本社設計部が技術的な支援を行い、現地で十分な実験を行った上で実施工に取り入れました。プレキャストにすることで、コスト、時間の短縮を図ることができました。今回の施工経験によってノウハウを蓄積することができましたので、同工種の施工にあたっては、この技術を応用することが可能になりました。

オーストラリアの下請会社の技術になりますが、鋼管杭を斜めに打設する際に使用する装置「ゲート・パイル・キーパー」や



事務所





鋼管杭の打設



鋼管杭(斜杭)の打設



左から 宮近、ブルハン、久保、殿垣、平木、佐々木、藤田

ハンマーで鋼管杭を打ち込む際に、一打撃でどのくらい沈み、どのくらいリバウンドがあったかをモニタリングする装置「PDM(パイル・ドライビング・モニター)」は、日本では経験したことのないものです。海外の工事では、日本国内のみならず海外の施工技術も経験することにより、当社の技術力を向上させる良い機会にもなっています。

来年6月の竣工に向け、梁の設置、床版の設置、舗装の工程で施工を進めていきます。また、今回のプロジェクトには、タグボートの修理も含まれています。具体的な内容としては、塗装、ウィンチ、エンジン主機・補機、発電機の入替えなどがありますが、日本の協力業者に担当してもらい作業を進めていきます。

当社は、海外事業の拡大を目指していますが、それには注力する国で国籍を持つ社員の活躍が不可欠になります。今後もダイバーシティに積極的に取り組み、外国籍の社員の採用・育成を進めていきます。



サモア独立国とは

赤道の南1,200km、ニュージーランドの北2,300km、ハワイの南3,700kmの南太平洋の中心に位置するサモア諸島は、日付変更線のすぐ近く西経171度線の両側にあり、その西側のサモア独立国(ウポル島)と東側のアメリカ合衆国領サモア(サバイイ島)の2つの大きな火山島で構成されています。サモア独立国は、人口・約19.3万人、面積・2,830平方キロメートルの小さな国家です。首都は、唯一の都市であるアピアであり、中心街は、アピア湾に沿って東西に走るビーチ・ロード(Beach Road)と、そこから南へのびるバエア・ストリートを中心に、半日で歩き回れるほどの広さです。

気候は、1日の気温の変化は21℃～30℃で5月から10月までが乾季、11月から4月が雨季になります。1年を通して湿度が高いものの、4月から10月は南東の貿易風によってかなり和らげられます。

宗教は、キリスト教徒が国民の90%以上を占め、首都・アピアや村々には他の建物とは比べものにならない立派な教会があります。日曜日は安息日であり、午前中は家族揃ってミサに出掛け、午後は散歩や横になって過ご

します。ほとんどのお店が日曜日を休業としています。

経済活動は小規模で、ココナツやタロイモなどの伝統的農業に依存しており、1990年代半ばからの経済成長も漁業、農業、観光が大きく貢献しました。現在、労働人口の大半が従事している農業のGDP(国内総生産)に占める割合は、徐々に減少しつつあり、ニュージーランド、オーストラリア、アメリカ(ハワイ)に住むサモア人からの仕送りが、重要な国家収入になっています。首都アピアにあるアピア港では、主な輸出品は、魚介類やココナツクリーム、主な輸入品は、食料品・食肉、自動車になります。

観光・名所としては、まずは木製の太鼓が作り出すリズムに乗り、火を使う劇的で勇壮なファイヤードンズがあります。そして、「宝島」や「ジキル博士とハイド氏」の作者として知られる作家、ロバート・ステューブンスンの住居が博物館として残されています。また、ウポル島南岸には、トスア・オーシャン・トレンチという天然プールがあります。階段と木製の梯子を降りていくと、美しく神秘的な光景に接することができます。

技術年報発表会

2016年12月5日に、本社において「平成28年度技術年報発表会」を開催しました。「若築建設土木技術年報」は、技術力向上の取り組みを目に見える形で残すことを目的に、1991年度より刊行している技術論文集で、本年度は記念すべき第25巻となりました。技術年報には各支店の施工報告および設計検討報告を5編、本社建築部の設計検討報告を1編、本社技術部の研究開発報告を3編の計9編の技術論文を掲載しました。技術年報発表会には社長以下60名を超える役職員が参加し、執筆者全員が成果報告をプレゼンテーションし、闊達な質疑応答が行われました。

発表終了後、論文内容と発表内容に関する審査を行い、優秀賞3名、努力賞2名、奨励賞4名を表彰しました。これからも、技術力の蓄積や水平展開及び社員のプレゼンテーション能力向上を目的として、技術年報の刊行と技術年報発表会の開催を継続していきます。



表彰者

技術研究所見学会

2016年11月15日に木更津工業高等専門学校の学生および教職員の方々46名を招いて技術研究所の見学会を開催しました。

当日は、所内設備の見学のほか、海洋土木工事で使用する施工管理システムや水中を可視化するソナー、コンクリート構造物の品質を向上させるための装置、また2014年に建造したグラブ浚渫船「若鷲丸」など、当社が保有する技術や機械船舶について、パネルやビデオ、実物を使っていろいろな角度から紹介しました。参加者からは、専門技術に対する興味や職員のアットホームな雰囲気などに関する、さまざまな感想が寄せられました。



パネル説明



研究紹介



ドローン講習会

国土交通省が推進するi-Constructionのトップランナー施策である「ICTの全面的な活用」では、ドローンを扱う技術が不可欠です。進捗写真をドローンで空撮する工事が増えてきましたが、現場内であってもDID(人口集中地区)等でドローンを飛ばす場合は、10時間以上の実技講習と国土交通省への許可申請が必要となるなど、ドローン飛行には多くの規則が存在します。

こうした背景から、技術研究所でドローン講習会を開催しました。各支店から5名が参加し、ドローンの操縦技術だけでなく、撮影した写真の活用方法やドローンを飛行させる際に順守すべき関係法令のほか、屋外で飛行させる場合の条件や各種申請方法などを具体的に講習しました。



ドローン操作指導

技術研究所勤務を経験して

技術研究所では支店から若手職員を受け入れて、現場における技術提案の履行業務についてOJTを行っています。技術研究所に2015年7月から勤務し、1年半余り履行業務に携わった2人の若手に、研究所で学んだこと、今後の展望などを語ってもらいました。



泉 雄太郎 (大阪支店、研究所勤務:2015年7月～2017年3月)

私は、入社して以来携わってきた国交省発注の海上土木工事の経験で、技術提案の履行の大変さが身に染みていました。技術研究所での履行支援の仕事を通して痛感したことは、「段取り」と「把握対応」の重要性です。予め現場状況を頭の中で思い描き、できる限り事前に準備を行うことで、焦ることなく提案の履行が可能となりました。また、技術提案を通して全国の現場と関わりを持ち、人脈の拡大や地域特性の把握、各現場の施工管理方法を知ることができ、さまざまな知識と経験を得ることができました。



中村 謙太 (九州支店、研究所勤務:2015年7月～2017年2月)

研究所赴任当時、私はまだ入社3年目で現場経験が浅く、技術提案の履行業務に不安を抱くこともありました。技術提案の履行はケーソン据付など重要な工程が多く、発注者の立会などタイトなスケジュールとなることもあります。失敗が許されないため、事前の段取りや不測の事態への対応などの重要性を痛感します。支店に戻っても、研究所で学んだ事を糧に現場での経験を積み、自分で現場を回してものづくりに貢献していきたいと考えます。

【浚渫ICT対応型】3D作業船位置管理支援システム

Wakachiku Intelligence Technology
Barge Depth 3D System

概要

港湾におけるICT化の第一歩として、2017年度より浚渫工事へのICT活用が導入されました。これを受けて、独自にICT化を推進してきた浚渫管理システム「Barge Depth System」に、「3次元鳥瞰図表示機能」および「バケット状態監視機能」を加えた拡張システムを構築しました。施工内容に応じた様々な背景図にGNSS（衛星測位システムの総称）による位置・方位情報をもった作業船舶を表示する機能に加えて、3次元データ処理機能を活かした直感的な管理画面が表示できるため、掘り残しのない効率的な浚渫作業が可能となります。また、これらの機能は、基礎捨石工事等、浚渫工事以外の工種にも幅広く対応することが可能です。今後はさらに、3次元CADに基づく対応等、現場の生産性向上に寄与するシステムとしていきます。

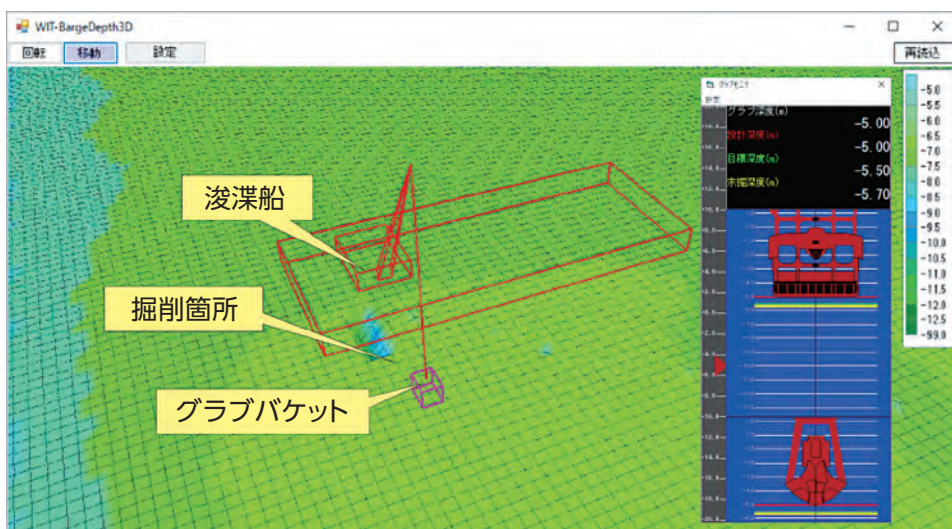
主な拡張機能

①3次元鳥瞰図表示機能

地形データと船舶情報を3次元鳥瞰図として表示します。位置、深度、グラブバケットの状態を一目で視認できるため、作業状況を直感的に把握しやすくなり、浚渫作業の生産性が向上します。

②バケット状態監視機能

グラブバケットの深度、開閉状態をリアルタイム表示できるため、掘り残しや過掘りを防止し、効率的な浚渫作業が可能になります。バケット形状は自由に作成可能で、法面バケット等の特殊バケットも適切に表示できます。



3次元鳥瞰図とバケット動態表示



法面バケット表示

適用実績工事

工事名称	発注者	工種
平成28年度 北九州港(新門司地区)航路(-10m)浚渫[暫定-8m]工事(第3次)	九州地方整備局	グラブ浚渫(試験運用)
平成29年度 鹿島港外港地区中央防波堤付帯工事	関東地方整備局	グラブ浚渫
平成29年度 宇部港本港地区航路・泊地(-13m)浚渫工事(その2)	中国地方整備局	グラブ浚渫



開発にあたって

技術部総合評価対策室 谷口 岳史

三次元情報を駆使したシステムにより、モニターで浚渫状況を把握することが容易になりました。これにより、浚渫作業の効率化がはかれ、また、施工が高精度で行えるようになりました。今後は実績を更に積み上げ、浚渫作業以外にも対応していきたいと考えています。



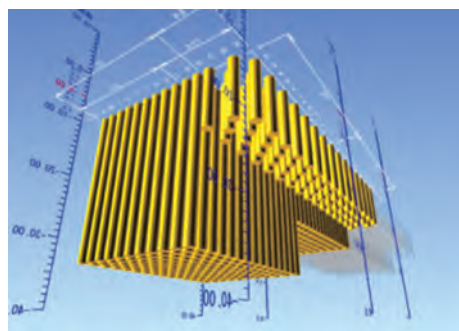
【ICT/CIM 対応型】WIT 地盤改良管理システム

Wakachiku Intelligence Technology
Management System of Ground Improvement for ICT/CIM

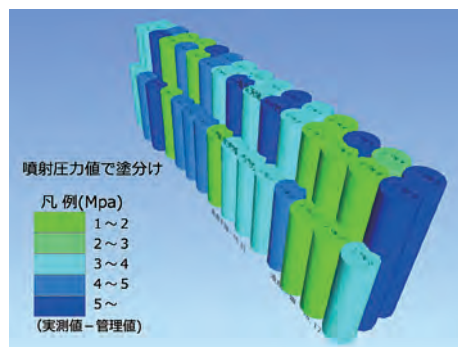
概要

地盤改良工事にCIMを導入するため、地盤改良体を3次元でモデル化し、出来形や品質情報を3次元モデルへ取込むことで、各種関連資料を一元管理するシステムを構築しました。2015年度には締固め工法(陸上工事)で実績を積み、2016年度は締固め工法(海上工事)、高圧噴射攪拌工法へ適用工種を拡大しました。今後はさらに、機械攪拌工法、薬液注入工法等へ展開し、適用箇所も防波堤基礎地盤、岸壁背面から空港の液状化対策等へ広がっていくほか、i-Constructionで掲げる建設生産プロセスにおける生産性向上に寄与すべくシステムの改良を進めていきます。

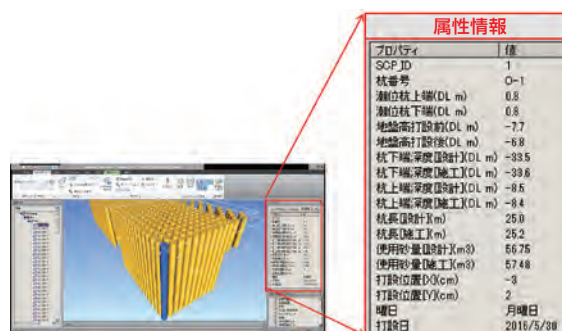
※CIM(Construction Information Modeling):調査設計・施工・維持管理の各段階に3次元モデルを導入して、建設生産システムの業務効率化や高度化をめざす取り組み



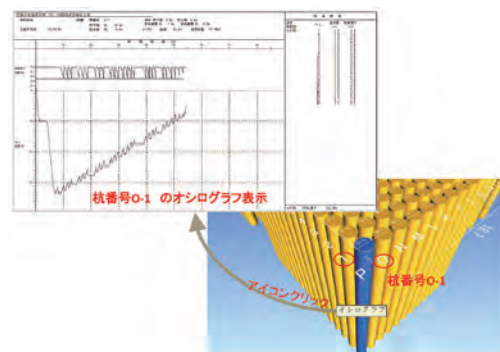
GNSS等から得られる出来形情報を取込み、3次元モデルを作成して**施工箇所を可視化**します。



品質、出来形値で塗分け、**全体の施工記録の傾向を一目で俯瞰**できます。



膨大な施工管理記録をひも解くことなく、改良体に関する情報を**システム上で瞬時に確認**できます。



オシログラフ、事後調査結果等あらゆる**関連資料をシステム上にひも付け(リンク)し、一元管理**します。

適用実績工事

工事名称	発注者	地盤改良工種
平成27年度 津松阪港津地区(栗真町屋)2工区堤防(改良)本体及び防護矢板設置工事	中部地方整備局	締固め工法(陸上)
平成28年度 撫養港海岸桑島瀬戸地区堤防改良工事(その5)	四国地方整備局	高圧噴射攪拌工法(海上)
平成27年度・28年度 徳島小松島港沖洲(外)地区防波堤築造工事	四国地方整備局	締固め工法(海上)
平成28年度 横浜港南本牧地区岸壁(-18m)(耐震)地盤改良工事	関東地方整備局	締固め工法(海上)
平成28年度 東京国際空港N地区用地造成等工事	関東地方整備局	高圧噴射攪拌工法(陸上)
平成28年度 仙台塩釜港石巻港区雲雀野地区防波堤(南)基礎(改良)工事	東北地方整備局	締固め工法(海上)



不可視部の品質を伝える

技術部総合評価対策室 原 稔

地盤改良は施工の結果を直接目で確認することが困難な工種ですが、「これなら地中の見えないところもきちんと出来ているでしょう」と発注者様に思って頂けるような管理システムを目指して、真摯に開発を進めてまいります。



コーポレート・ガバナンス

▶コーポレート・ガバナンス体制

基本的な考え方

当社は、経営の透明性・効率性を向上させ、持続的な企業価値の向上を図ることを基本方針として、株主をはじめとする全てのステークホルダーとの円滑な関係構築を実現するため、迅速かつ効率的な経営・執行体制の確立を図り、透明性の高い経営の実現に取り組んでいます。

取締役会

取締役会は原則月1回開催し、法令および定款に定められた事項ならびに経営に関する重要事項について審議・決定を行っています。また、必要に応じて臨時に取締役会を開催し、迅速かつ適切な意思決定につとめています。

社外取締役

社内取締役だけでは得られない、客観的で多様な視点から重要な経営上の意思決定に参加するため、経営経験者、学識経験者の豊富な経験と高い見識を有する者2名の社外取締役を選定しております。これにより、取締役会の監督機能を強化し、透明性を高め、より実効性のある取締役会を目指してまいります。

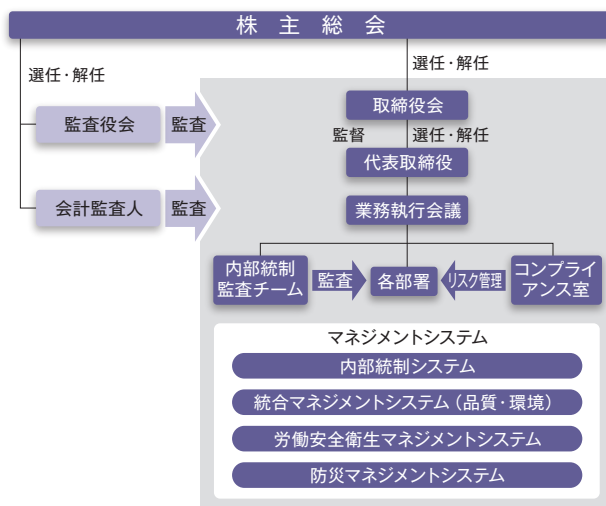
執行役員制度

経営の透明性と健全性を高め、経営環境の変化に即応するスピーディな業務執行ができるよう、執行役員制度を導入しており、経営責任と執行責任の明確化をはかっています。

監査役会

当社は、監査役制度を採用しており、3名の監査役の内、半数以上の2名を社外監査役としています。監査役は、取締役会およびその他の重要な会議へ出席し、重要な決裁書類等の閲覧

等を通じて、取締役の職務執行を監査しています。さらに、内部監査を定期的実施することにより、業務執行の適法性・効率性について監査しています。



※マネジメントシステム

内部統制、品質、環境、安全、防災など主要な業務については、プロセスを明確にした全社一体型のマネジメントシステムとして整備・運用しています。PDCAサイクルにより、機能の強化を進め、業務の効率化をはかっています。

▶内部統制

内部統制システム

業務の執行が適正かつ健全に行われるため、実効性のある内部統制システムの維持・更新と法令遵守体制の維持に努めています。

社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力とは、取引関係その他一切の関係を遮断するため、不当要求等については外部機関と連携し、毅然とした態度で適切かつ組織的に対応します。

損失の危険の管理に関しては、危機管理委員会を設置するとともに、リスク管理および法令遵守の徹底の担当部署を置き、リスク管理規程に基づいてリスクが顕在化することを防止するとともに、リスクの軽減を図ります。また、大規模自然災害に備え、社員の安全確保・事業活動の継続・社会貢献を基本方針として防災規程に基づき対策の強化・推進をはかっています。

また、財務報告の適正性を確保するため、必要な内部統制体制を整備・運用しています。

内部統制監査

財務報告の信頼性を確保し、会社の健全性を維持するために、総合システム部を中心とした内部統制監査チームによる内部統制監査を実施することで、内部統制の有効性を継続的に監視し、評価・改善をはかっています。また、各種研修会への参加による内部監査人の監査レベルの維持・向上につとめています。

なお、内部統制監査チームは、監査役に対して定期的に内部統制監査の実施状況を報告し、監査役は必要に応じて随時、報告を要請できる体制となっています。

▶コンプライアンス体制

管理体制

法令遵守の徹底と企業倫理の確立をはかるために、コンプライアンス室を中心とした管理体制を整備しています。

また、業務執行や個人の行動に関する遵守すべき基本的事項を、企業行動規範を基により具体的に示した企業倫理規程、および行動指針・マニュアルなどを定め、管理体制を強化しています。

内部通報制度

法令などに違反する行為を発見した場合や発生するおそれがあると判断した場合の通報窓口（コンプライアンス室）を設置しており、重要な情報は取締役会および監査役に伝えられます。なお、内部通報規程により、通報者は保護されます。

企業行動規範

当社は創業以来、その時代の求める社会のニーズに応え、社会の発展と国民生活の向上に寄与すべく企業活動を行ってきました。これからも私たちは、一人ひとりが高い倫理観を携え、

公正な企業活動を通じて、建設業者としての社会的使命・役割を果たして行きます。社会に受け入れられ、信頼される会社であるために自信と誇りをもって活動できるように、私たちの守るべき「企業行動規範」を定めました。

I. 企業行動規範

第1 建設業者としての社会的使命・役割の遂行

建設業者としての社会的使命・役割を果たすため、健全で成長力のある企業体質を保持し、良質の建設サービスを安全かつ経済的に顧客に提供する。また、大規模自然災害発生時には組織をあげて被災地域、住民を支援し、復旧・復興に取り組む。

1. 健全な企業体質の確立
2. 顧客の満足と信頼の獲得
3. 品質の確保と建設技術の向上
4. 適正な協力体制の構築
5. 公衆災害防止の徹底
6. 自然災害への対応

第2 公正で誠実な企業活動の実践

法令及びその精神を遵守するとともに、社会的良識に反する企業行動は一切行なわない。公正な取引、適正な会計処理、クリーンな政治・行政との関わりを保持する。

1. 公正な営業活動の実施
2. 適正な生産体制の構築
3. 反社会的勢力の排除
4. 知的財産権等の保護
5. 適正な財務処理等の実行
6. 政治・行政との適正な関係の保持

第3 人を大切にする企業の実現

「人」を大切にする企業であるため、人権の尊重はもとより労働環境の改善、人材の確保・育成に努める。

1. 魅力ある労働環境の創出
2. 安全衛生対策の強化・充実
3. 差別や不当な取り扱いの禁止
4. 多様な個性や能力を尊重した人事処遇、人材育成の推進

第4 社会との共生

よりよい環境を創造するため、環境保全、省エネルギー等社会の要請に応えるとともに、良き企業市民として社会貢献活動に努める。

1. 社会との広範なコミュニケーションの実施
2. 社会貢献活動の積極的な展開
3. 環境保全等への取り組み
4. 国際活動における各国・地域への貢献

II. 本規範の実効性確保

経営トップは率先して必要な体制整備等を推進し、規範に基づいた企業行動の実践について、グループ全体を統率する。また、協力会社においても、本規範の趣旨に基づいた取り組みを促す。

1. トップによるコミットメント
2. 実践のための体制整備
3. 具体的な取り組みに関する情報開示
4. 定期的なチェックと評価
5. 速やかな説明責任と対応措置
6. 厳正な処分

▶リスク管理

事故・災害・紛争や不法行為、テロやその他不測の事態など、企業経営におけるリスクはますます複雑化、多様化しており、リスク管理の重要性は高まっています。当社では、様々な緊急事態に迅速かつ的確に対応できるよう、対応手順をリスク管理規程で定めています。全社的な取り組みが必要と判断した場合には、代表取締役を委員長とする危機管理委員会により、迅速に対応できる体制をとっています。

大規模自然災害に対しては、防災規程に基づき、対策の強化・推進をはかっています。

▶情報セキュリティ

ITによる情報化が進歩している現在、企業が保有する機密情報の漏洩は、社会的信頼の低下、ひいては企業利益の損失につながり、経営に大きなダメージを与えるリスクをかかえています。当社では、社員が業務上知り得た機密情報の漏洩などを未然に防止するため、情報管理規程を定め、情報の保護につとめています。また、お客様をはじめとするすべての個人情報適切に保護するためプライバシーポリシーを制定し、具体的な管理手順を個人情報保護規程で明確にしています。

電子情報のセキュリティについては情報セキュリティポリシーを策定し、周知徹底をはかっています。



品質・環境マネジメントシステム

品質と環境については、全社一体型の統合マネジメントシステムを適用しています。高い品質の確保とお客様の満足度の向上を目指すとともに、積極的な環境保全活動を行っています。

品質環境方針

若築建設は、国内外における社会基盤施設の建設活動を通して、社会の発展に貢献します。また、経営資源を効果的に活用して、人材育成や技術力の向上に積極的に取り組むとともに、業務改善を常に心がけ、社会からの信頼に応えてまいります。

法令の順守

法令、その他の社会的規範等の順守を徹底し、高い倫理観のもとに良識ある企業活動を実践します。

お客様の信頼確保

お客様のニーズを先取りし、お客様のご要望に応え、満足していただける高品質の建設サービスを提供します。

環境の保全

汚染の予防や生物多様性の保全等に努め、環境保全技術の開発、省エネルギー対策、建設副産物対策を積極的に推進します。

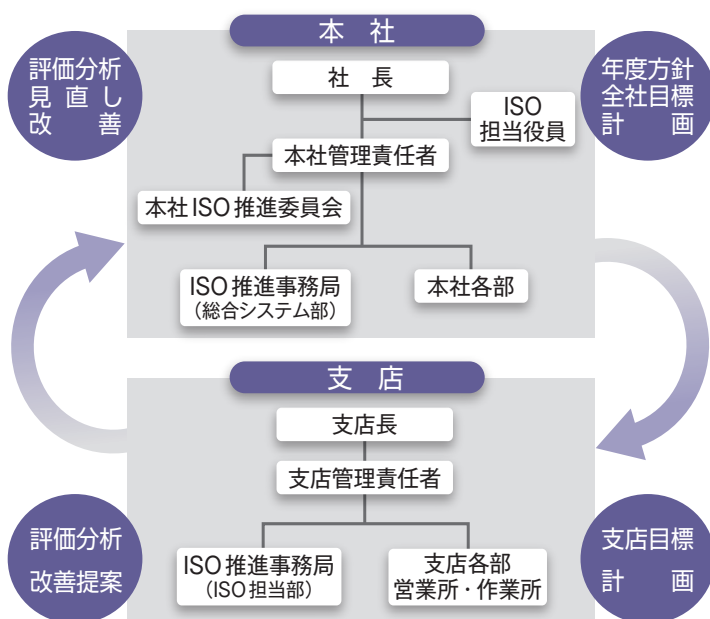
社会への貢献

社会とのコミュニケーションを大切にし、防災活動や地域交流などを積極的に推進し、豊かで住み良い社会づくりに貢献します。

▶ マネジメントシステムの運用

本社と支店にマネジメントシステムの管理責任者を配置しています。本社管理責任者は、本社内のマネジメントシステムの運用管理を担うとともに、支店も含めた全体のマネジメントシステムの管理を行っています。支店管理責任者は、支店内でのマネジメントシステムの運用管理を行い、運用状況、評価分析結果、改善提案などを本社管理責任者に報告しています。

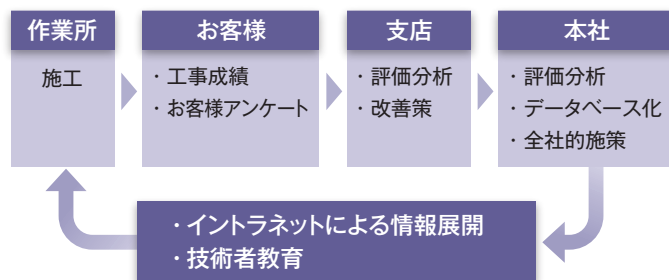
毎年一度、本社でISO推進委員会を開催し、すべての運用データを集めて評価分析し、総合的な見直しを行っています。そしてそれらの結果は、マネジメントレビューのための基礎データとなり、システムの向上につなげています。



▶お客様の満足度向上をめざして

お客様のニーズを把握し、満足していただける建設サービスを提供していくために、受注から引渡しまでの各段階において、本社、支店の各部門がサポートする体制を整えています。

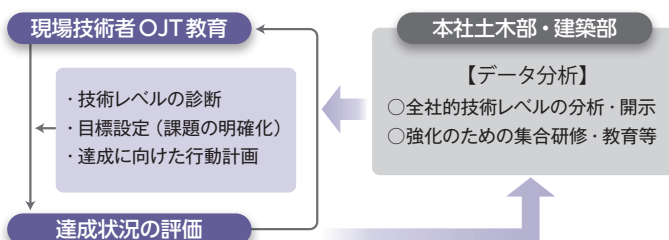
特に施工計画段階においては、品質確保や環境保全のための予防処置の検討に重点を置いています。また、お客様の評価や貴重なご意見をしっかりと受け止め、その後の対応やお客様の満足度向上に活かすために、それらの情報をイントラネットや教育を通して、全社に展開しています。



▶技術力の向上

品質を確保させるためには、品質を支える技術者の能力を伸ばすことが必要です。当社では、システム化されたOJT教育を実施しており、毎年個々の技術者に対して上司が面談して必要な目標・行動計画を設定し、実務上での支援・指導、そして達成状況の評価を行い、レベルアップをはかっています。

また、若手技術者を対象に、施工管理に関する技術研修などを開催し、技術力の向上につなげています。



▶外部審査・内部監査

品質マネジメントシステム(QMS)および環境マネジメントシステム(EMS)の審査登録機関による2016年度の審査では、規格要求事項に対する改善指摘(不適合)はありませんでした。

社内の内部監査においても改善点の指摘は少ないものの、システム改善に向けた提案や要望事項が数多く出されました。

指摘を受けた改善点については原因を究明して作業を見直し、改善提案や要望事項とあわせて、システムへの導入、水平展開につとめています。



外部審査(土木現場)

外部審査			
審査期間	2016年6月15日～6月17日		
審査対象	本社、東北支店、東京支店、名古屋支店		
審査結果		QMS	EMS
	改善指摘A(重大な不適合)	0件	0件
	改善指摘B(軽微な不適合)	0件	0件
	観察事項(要検討事項)	0件	0件
	改善の機会	2件	0件
	充実点(優れた事項)	1件	2件
審査登録機関	株式会社マネジメントシステム評価センター		

内部監査			
監査期間	2016年11月22日～2017年3月10日		
監査結果		QMS	EMS
	監査対象	本社、支店(サンプリング)	87部署
	重大な改善点(重大な不適合)	0件	0件
	改善点(軽微な不適合・観察事項)	4件	0件
	提案・要望事項	15件	2件
	推奨事項	18件	4件
優良事項		9件	1件

安全マネジメントシステム

労働安全衛生マネジメントシステム

「人命尊重」の基本理念や「安全は企業活動の根幹」とするモットーのもと、当社および協力会社の従業員とその家族の皆さまに安心していただけるよう、安全で快適な職場づくりにつとめています。

当社は2004年から労働安全衛生マネジメントシステム(OHSAS18001)を運用し、現在、全支店の土木部門が認証を取得しています。

今後もこのシステムを有効に活用しながら継続的な改善につとめ、労働安全衛生に対する社員および協力会社の意識のさらなる向上をはかり、全社一体となって労働災害絶滅への取り組みを進めていきます。

安全環境本部の設置

当社は2017年4月1日より本社に「安全環境本部」を設置しました。安全環境本部設置の目的は、①当社の安全文化を醸成し、事故災害を防止していくことで企業としての責任を果たし、それをもってお客様の信頼を得ること、②現状に危機感を持ち、問題点を共有し、企業としてこれに対応するため、社内における「安全部門の充実と役割の強化」を図る、ことです。

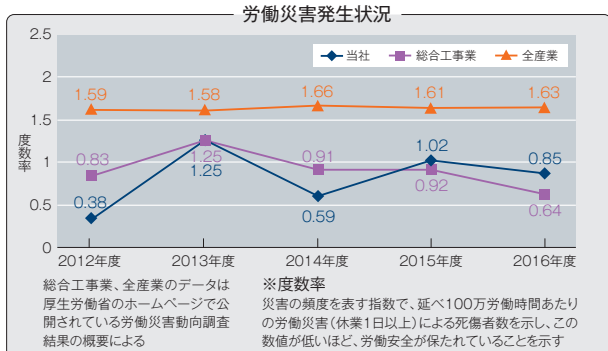
安全環境本部の設置効果としては、①存在感を発揮する安全環境部として指導力を向上する、②従業員の安全管理知識・技能・意識の向上による効率的な協力会社指導を実施する、③トップから従業員、協力業者に至るまでの安全意識の向上(安全文化の醸成)を図ること、を目指しています。

労働災害絶滅への取り組み

災害防止重点項目は、過去20年以上にわたって蓄積してきた当社の災害統計をもとにして設定しています。

2016年度は『墜落・転落災害』『建設機械に起因する災害』『第三者災害』の防止を災害防止重点項目に設定し、安全衛生管理に取り組みました。

今後も、安全衛生基本方針に基づいて、「災害ゼロ」から「危険ゼロ」をめざし、さらに充実した安全衛生管理に取り組んでいきます。



安全衛生教育

本・支店勤務者も含めた技術系職員を対象に、全国38会場に分けて安全衛生教育を実施しました。2016年度は作業現場巡視時に認められる不具合事例と是正のあり方にポイントをおいた研修とし、対象者のほぼ全員の589名が受講しました。



建設機械災害防止運動

建設機械災害を防止するため「若築3・3・3運動」や「グーパー運動」「誘導なしでバックしない運動」を推進しています。

特に「若築3・3・3運動」はクレーンによる吊り荷地切り時の接触や、はさまれ事故などの防止に重点を置いた運動としてすべての作業所に徹底し、災害防止につとめています。



安全パトロール

社長、支店長などによる役員パトロール、安全環境部および協力会社との合同パトロールなどを定期的実施し、労働災害防止の指導と安全意識の高揚をはかっています。また、女性職員の視点によるパトロールなども実施しています。



社長パトロール



女性職員パトロール

「あんぜんプロジェクト」への参加

厚生労働省が推進する「労働災害のない日本を目指して、働く方の安全に一生懸命に取り組み、「働く人」「企業」「家族」が元気になる職場を創るプロジェクト」です。当社もこのプロジェクトに参加して安全対策に積極的に取り組み、活動状況や災害発生状況を公開しています。



厚生労働省関連HPより

災害に備えて

梅雨前線や台風第3号の影響により九州北部地方を中心に局地的に降った猛烈な雨など、今年も全国各地で甚大な自然災害が発生しています。これらの災害に対応するため、防災力の向上はますます重要になっています。当社では、大規模災害の発生に対し、社会インフラの迅速な復旧など、建設会社としての社会的責任を果たすことができるよう防災基本方針を定め、様々な自然災害に対応した事業継続計画(BCP)を策定し、防災体制を整備しています。

防災 基本方針

- 人命の安全確保を最優先する
- 事業活動の維持、早期復旧を図る
- 地域社会の防災活動や災害の復旧、各種支援活動に積極的に取り組む

事業継続計画

大規模災害発生時の業務復旧や災害復旧支援などの計画を定めた事業継続計画(BCP)を策定し、本社および支店で、災害に対する被害の軽減、早期の通常状態への復帰および地域防災力の向上に取り組んでいます。一例として、安全確保後の滞留者のための水や食料、寝袋・マットや毛布などを備蓄し、大規模災害発生時に対応できる体制を整備しています。

国土交通省では、災害発生時における建設会社の基礎的事業継続力を評価・認定する制度を設けており、当社は、東北地方整備局、関東地方整備局、近畿地方整備局より認定を受けています。

災害・安否確認システム

大震災など大規模自然災害が発生した場合に、社員の安否を確認し、災害復旧の職務に従事できる体制を整えるために、当社では携帯電話やスマートフォンを利用した、「災害・安否確認システム」を採用しています。2017年は、サモア、インドネシア、スリランカの各海外事業所に駐在する職員も含めた838名が「災害・安否確認システム訓練」に参加し、参加者全員の安否状況を確認しました。

また、社長を災害対策本部長とする「災害対策本部」を立ち上げる訓練を行いました。



災害対策本部長上訓練

自衛消防・救命活動

本社および各支店で災害自警団を組織し、災害発生時の消火・避難・救護体制を整備し、いざという時に備えて避難訓練や消火訓練などを繰り返し行っています。また、応急救命講習会を実施し、救命技能認定者の養成を推進しています。



消火訓練



通報訓練

地域防災への取り組み

災害時支援ボランティア

本社・東京支店では、東京消防庁の災害時支援ボランティアに登録して消防隊の後方支援に協力し、小学校の防災訓練で消火器やAEDなどの機材取り扱いの指導を補助したり、地域防災訓練で地域住民の方々と一緒に訓練を行うなど積極的に活動しています。



災害支援ボランティア

AEDの設置

万一の心臓疾患発症に備え、全作業所でAEDを設置し、取り扱いの指導を受けています。また、社員や工事関係者だけでなく広く近隣の皆様にも使用していただけるようAED設置について看板を掲げるなどご案内をしています。



環境データ

▶ 環境目標

「建設業の環境自主行動計画 第6版」（一般社団法人 日本建設業連合会）が掲げる目標に準じて活動しています。

当社の目標及び実績			
施工段階におけるCO ₂ の排出抑制	工種	2020年度目標	2016年度実績
	海上土木工事	120t-CO ₂ /億円 以下	95t-CO ₂ /億円 以下
	陸上土木工事	57t-CO ₂ /億円 以下	61t-CO ₂ /億円 以下
	建築工事	12t-CO ₂ /億円 以下	9.5t-CO ₂ /億円 以下
建設副産物対策	建設汚泥の再資源化等率	2018年度までに90%以上	99%
	建設発生土の有効利用率	2018年度までに80%以上	96%

建設業の環境自主行動計画 第6版の目標	
施工段階におけるCO ₂ の排出抑制	2020年までに1990年比で20%削減(施工高当たりの元単位t-CO ₂ /億円)
	2030年までに1990年比で25%削減(施工高当たりの元単位t-CO ₂ /億円)
建設副産物対策	2018年度までに建設汚泥の再資源化等率を90%以上
	2018年度までに建設発生土の有効利用率を80%以上

※ 施工段階でのCO₂排出量に関する当社の目標は、これまでの実績により3工種に区分して設定しています。

※ 建設汚泥再資源化等率：建設汚泥場外搬出量の内、売却や他工事利用を含めた再資源化量の割合

※ 建設発生土の有効利用率：工事で盛土等に使用した土量の内、他工事から搬入した発生土量と当該工事の掘削土等を転用した土量の割合

▶ 環境会計

環境会計は、「建設業における環境会計ガイドライン2002年度版」(日建連)および「環境会計ガイドライン2005年版」(環境省)に準拠して算定しました。

環境保全活動の、経営との関連性や有効性を明確にし、機能の強化をめざしています。

- **対象範囲**：国内事業所のみとし、関係会社は含みません。
- **対象期間**：2016年4月1日～2017年3月31日
- **集計方法**：環境保全コストは、15工事をサンプリング抽出し、完成工事高により全社換算しました。サンプル抽出した工事は、完成工事高全体の16%に相当します。なお、サンプリングの対象は、単独および当社が幹事会社である共同企業体工事です。

環境保全コスト

分 類	内 訳		費用(百万円)				
			2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
事業エリア内コスト	公害防止コスト	水質汚濁防止、騒音・振動防止	837	1,742	1,167	1,399	1,279
	資源循環コスト	産業廃棄物・一般廃棄物の処理・処分	631	872	745	1,309	584
	小計		1,468	2,614	1,912	2,708	1,863
上下流コスト	環境配慮設計		4	4	4	4	4
管理活動コスト	監視・測定、環境教育や事業所周辺の緑化・美化などの環境改善対策		75	30	41	22	84
研究開発コスト	環境保全に関する研究開発		33	34	17	6	29
社会活動コスト	工事のイメージアップや地域の緑化・美化などの環境改善対策		28	22	32	44	51
環境損傷対応コスト	環境リスクの対応費や環境損傷の保険料など		10	11	6	13	4
計			1,618	2,715	2,012	2,797	2,035

環境保全効果

分 類	項 目	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
事業エリア内効果	建設廃棄物リサイクル量	18,495t	99,359t	70,188t	42,955t	94,504t
	工事による温室効果ガス排出量	69,032t-CO ₂	51,156t-CO ₂	40,482t-CO ₂	57,979t-CO ₂	53,428t-CO ₂
	オフィスの温室効果ガス排出量	1,123t-CO ₂	1,019t-CO ₂	1,037t-CO ₂	1,210t-CO ₂	1,175t-CO ₂
上下流コスト	高炉B種セメント	14,098t	5,376t	31,854t	8,647t	8,682t
	再生砕石	99,279t	51,540t	173,399t	191,397t	24,489t
	再生アスファルトコンクリート	3,281t	5,141t	7,903t	4,512t	5,278t
	グリーン購入(事務用品など)	16,776千円	19,717千円	21,875千円	22,397千円	26,870千円

▶ マテリアルフロー

主要建設資材	
セメント	14,523 t
生コンクリート	284,335 m ³
アスファルトコンクリート	6,895 t
鉄鋼製品	27,004 t
砕石	770,606 t

主要再生資材	
再生アスファルトコンクリート	5,278 t
再生砕石	24,489 t

施工での投入エネルギー	
電力	377 万 kwh
軽油	7,069 kℓ
A重油	12,553 kℓ
灯油	10.7 kℓ

オフィスでの投入エネルギー	
電力	139 万 kwh
ガソリン	145 kℓ
灯油	19.2 kℓ

INPUT

事業活動

技術開発

設計

施工

維持

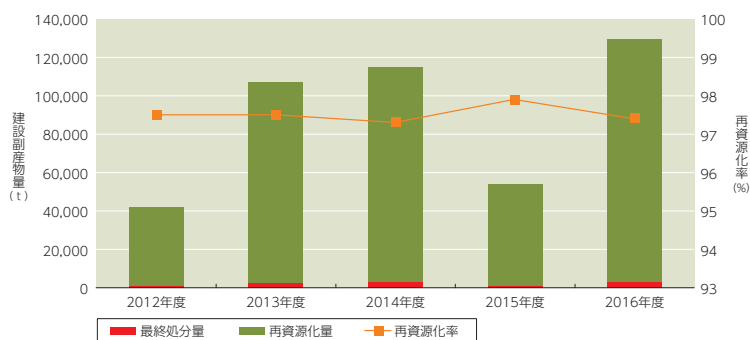
OUTPUT

建設副産物排出量		再資源化量		CO ₂ 排出量	
コンクリート塊	35,022 t	コンクリート塊	34,240 t	工事	53,428 t-CO ₂
アスファルトコンクリート塊	36,983 t	アスファルトコンクリート塊	36,977 t	オフィス	1,174 t-CO ₂
建設発生木材	2,552 t	建設発生木材	2,498 t	※指定副産物 建設リサイクル法で再資源化が義務づけられている、コンクリート塊、アスファルトコンクリート塊および建設発生木材	
指定副産物以外廃棄物	21,527 t	指定副産物以外廃棄物	20,789 t		
建設泥土	33,908 t	建設泥土	32,144 t		
		最終処分量			
		建設廃棄物	3,344 t		

建設副産物の再資源化量と再資源化率

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
総排出量	42,016t	107,565t	112,325t	54,265t	129,992t
再資源化量	40,947t	104,896t	109,278t	53,123t	126,648t
最終処分量	1,069t	2,669t	3,047t	1,124t	3,344t
再資源化率	97.5%	97.5%	97.3%	97.9%	97.4%

※ 建設発生土を除く



2016年度は建設泥土やアスファルト・コンクリート塊の排出量が増加したことにより、建設副産物の総排出量（発生土を除く）が前年度に比べ大幅に増加しましたが、再資源化については高い水準を維持しています。

今後は、森林などの自然環境保護や建設物のライフサイクルを考慮した資材調達などに関する取り組みも進めていきます。

佐伯バイオマス発電所の建設

＝次世代エネルギーによる発電施設、国内最大級のバイオマス発電所＝

大分県佐伯市において、セメント工場の跡地内の約2万㎡を利用してPKS※を主要燃料とするバイオマス発電所が建設されました。当社は、主に土木・建築工事の施工にたずさわりました。

定格出力5万KWの発電量は、県内のバイオマス発電では最大で、国内でもトップクラスとなっています。発電した電力は、再生可能エネルギー固定価格買取制度(FIT)を活用して売電されます。

年間の発電量は約315百万KWhを想定しています。これは約87,500世帯分に相当する電力で、佐伯市の総世帯数(約33,500世帯)の2.6倍に匹敵します。

※ Palm Kernel Shellの略。東南アジアで栽培される油やしの搾油時に発生する殻(廃棄物)

工事概要

事業主	イーレックスニューエナジー佐伯株式会社
建設場所	大分県佐伯市
工期	2015年2月～2016年11月
概要	ボイラー架構基礎(鉄筋コンクリート造基礎) タービン発電機棟(鉄骨造3階建て) 純水装置棟(鉄骨造平屋建て) 電気室棟(鉄骨造平屋建て) 燃料貯蔵棟(鉄骨造平屋建て) 井水ポンプ棟(鉄筋コンクリート造平屋建て) 他、プラント機械基礎 多数



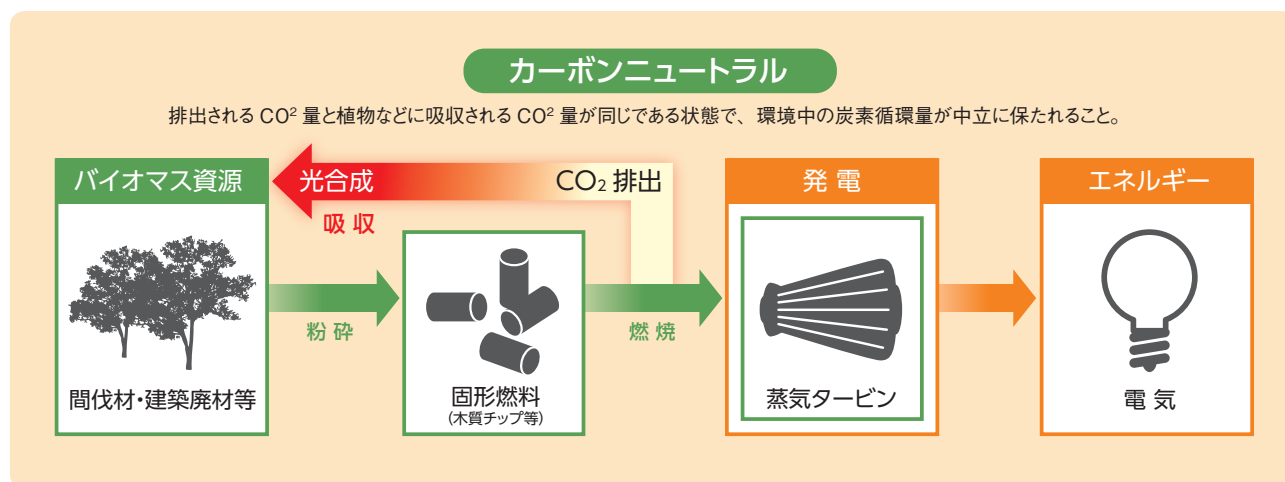
発電所全景



発電所夜景

▶ バイオマス発電設備の概念

バイオマス(植物や動物の排泄物等の有機物など)をエネルギー源として利用する発電設備です。カーボンニュートラルであり、二酸化炭素(CO₂)を増加させずにエネルギーを作り出す事ができるクリーンな発電方法です。



小水力発電所の建設

小水力発電は水車（タービン）を回して発電します。ダムを利用した一般的な水力発電と同じ原理ですが、ダムのような大規模構造物を必要としないため、設置可能な場所が多く、周辺環境へ与える影響も小さい発電方法です。今後、設備の規格化・量産化がすすむことで経済性にも優れた発電方法として期待されており、当社もいくつかの小水力発電所の建設にたずさわっています。

▶ 内之浦辺塚小水力発電所

この発電所は、鹿児島県肝属郡肝付町を流れる一ノ谷川を利用して発電する小水力発電所です。一ノ谷川の固定堰からの取水と隣接する一ノ谷発電所の放流水を併せ、県道下の水圧管路を通して、一ノ谷川下流に設置する水車を回して発電します。最大出力は800kWで、年間400万kWhを発電します。これは、一般家庭約1,100世帯分の年間電力使用量に相当し、化石燃料による火力発電に比べ年間約2,450tのCO²削減に貢献します。

工事概要

発注者	九州発電株式会社		
場所	鹿児島県肝属郡肝付町	発電能力	最大出力800kW
工期	2015年5月～2017年6月	水圧管路	径700mm、総延長1,264m



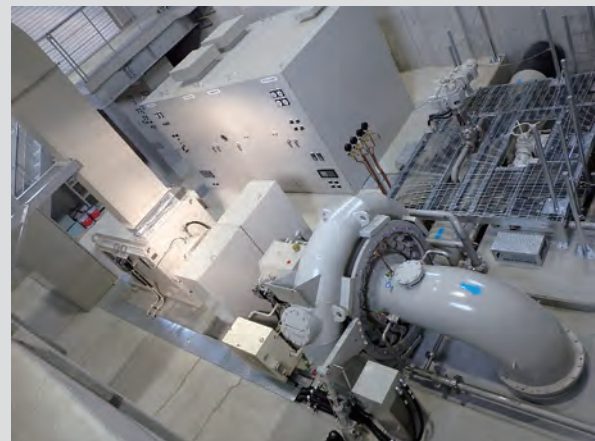
取水堰



発電施設全景



発電所



水車・発電機

風力発電所の建設

風力発電は環境に優しい再生可能エネルギーのひとつであり、特に安定した風力の得られる、北海道・青森県・秋田県などの海岸部で多く建設が進められており、当社もいくつかの風力発電所の建設にたずさわっています。

▶ 由利本荘海岸風力発電所

由利本荘海岸風力発電所は、秋田県由利本荘市の子吉川河口南側に位置し、目の前に雄大な日本海が広がります。晴れた日には遠方に鳥海山が望め、また夕日に映える風力発電所です。当社は、海岸線に沿って設置された7基の風力発電機の土木・基礎工事にたずさわりました。



工事概要

発注者	由利本荘風力発電株式会社
場所	秋田県由利本荘市
工期	2015年7月～2017年1月
発電能力	16,100kW(2,300kW/基×7基)



技術展への出展

全国各地の技術展で、当社で開発した技術や社有作業船を紹介しています。

東京湾大感謝祭2016

海から見つめ直す21世紀のライフスタイル

2016年10月 横浜市

展示物

- ・津波発生模型
- ・若鷺丸
- ・ジオマリーン工法



建設技術フェア2016 in中部

豊かで安全な暮らしと環境の調和をめざして

2016年10月 名古屋市

展示物

- ・若鷺丸
- ・多点同時注入工法



Techno-Ocean 2016

海への回帰 ～Return to the Oceans～

2016年10月 神戸市

展示物

- ・若鷺丸
- ・RC-Doctor



建設技術フォーラム2016 in広島

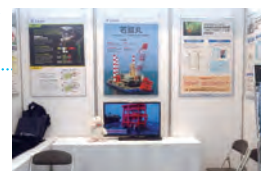
地域づくりを支える建設技術

～動き始めたi-Construction～

2016年11月 広島市

展示物

- ・若鷺丸
- ・INCOTEST
- ・RC-Doctor



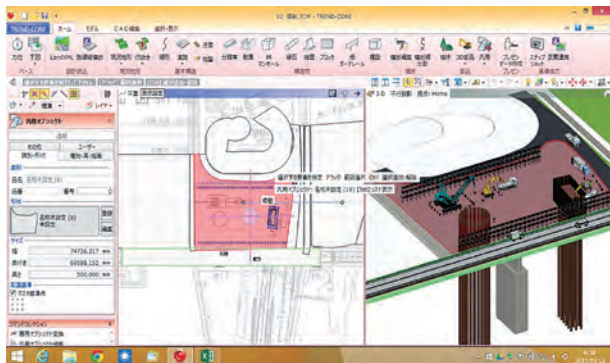
CIMの3次元モデル活用

三重県の国道1号線伊勢大橋架け替え工事に伴う橋梁下部工事において、施工計画の立案や工事説明資料の作成などにCIMの3次元モデルを活用しました。

▶ 3次元モデルの活用

仮設工への適用

工事準備段階の仮設工の計画に3次元モデルを導入することにより、施工イメージが把握しやすくなり、また、周辺施設への振動・騒音などの影響が想定しやすくなるなどの効果がありました。また、近隣住民への工事説明においても、3次元モデルはわかりやすく非常に有用でした。



仮設工の3次元モデル

作業計画への適用

狭い施工ヤードで足場組立てや資材搬入を行うため、綿密なクレーン配置計画が必要でした。また、作業スペースの確保や作業員の安全確保も課題でしたが、3次元モデルにより荷下ろしスペースがあるかというような施工イメージを関係者間で容易に共有することができました。



作業計画の3次元モデル

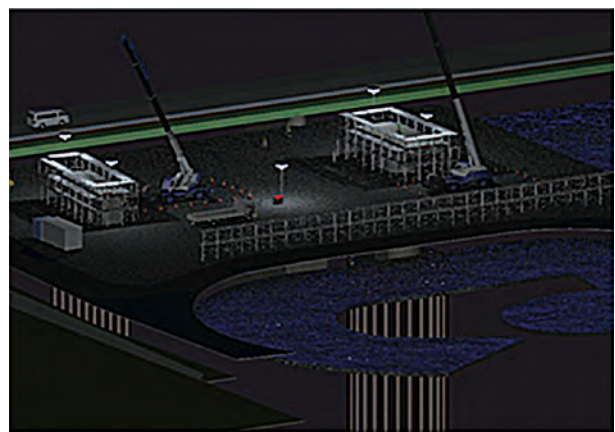


工事概要

工事名	平成26年度1号伊勢大橋中堤長良川下部工事
発注者	国土交通省 中部地方整備局
工期	平成27年2月～平成28年6月

環境影響に対する適用

この工事では夜間施工を行いました。長良川河口堰の鮎のふ化水路が近接していたため、夜間照明の影響を検討する必要がありました。そのため、3次元モデルで照明の影響範囲などのシミュレーションを行い、漁業関係者や発注者とのイメージの共有に役立てることができました。



夜間照明のシミュレーション



今後のCIM活用

名古屋支店 **渡部 耕平**

CIMの3次元モデルを施工計画や作業の安全対策及び周辺環境への影響把握に活用しました。今後もi-constructionの導入工事に対応し、建設現場の施工効率化のほか、技術の伝承や人材育成にも活用していきたいと考えています。

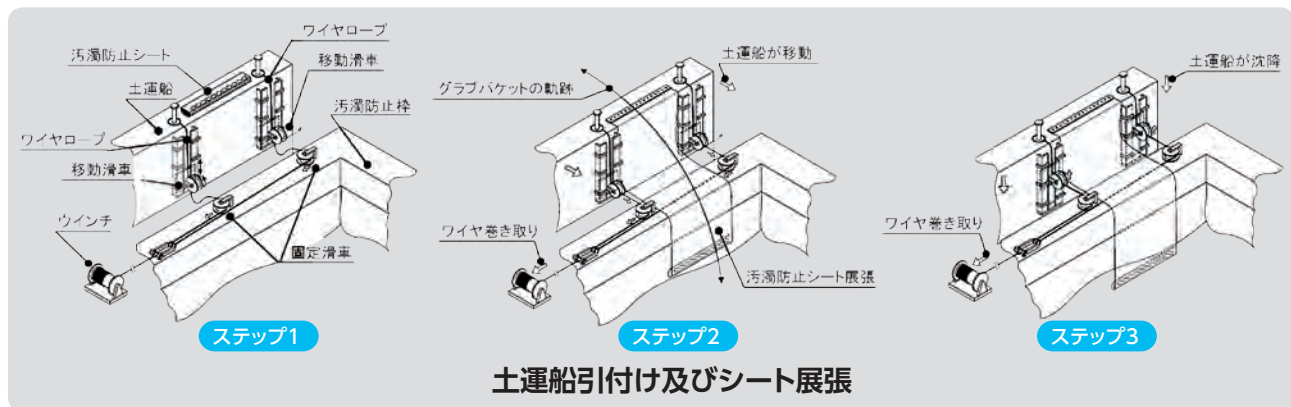
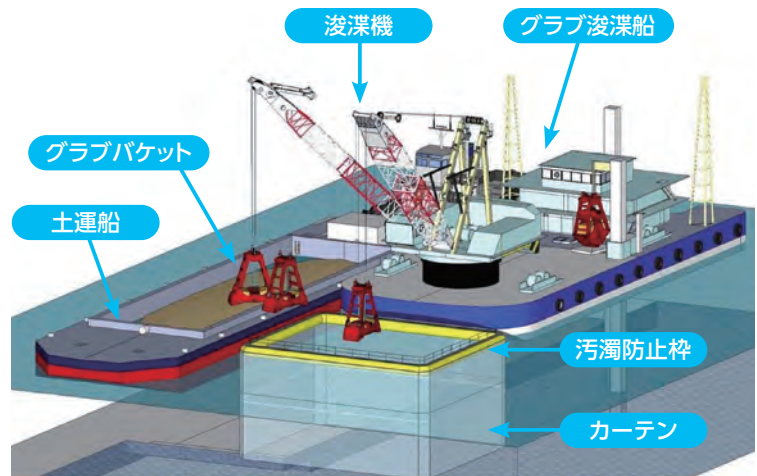
グラブ浚渫時の汚濁拡散防止技術

グラブ浚渫時の汚濁拡散防止技術として、「土運船引付け装置」を開発しました。(特許出願中)

グラブ浚渫は、浚渫船のグラブバケットで海底を浚渫する作業です。浚渫した土砂は、浚渫機を旋回させ、グラブ浚渫船横に接舷している土運船の泥槽に積み込みます。

浚渫をすると濁りが発生するため、濁りが拡散ないようにグラブ浚渫船の船首に汚濁防止柵を配置して、汚濁防止柵内の海底を浚渫することが一般的ですが、汚濁防止柵と土運船には隙間があります。

浚渫土砂を土運船に積み込む時や土砂を積み込んだ後の浚渫位置へ戻る際にグラブバケットに付着した土砂や濁水がこの隙間から海面に落下します。この技術は「土運船引付け装置」で汚濁防止柵と土運船の隙間を少なくするとともに、シートを展張して隙間を塞ぐことで、浚渫時の汚濁拡散を防止します。



若鷲丸の環境性能実績

グラブ浚渫船「若鷲丸」は、環境に配慮したしくみを搭載しています。その中から**グラブバケットの角度制御技術**と**グラブバケットの余水削減技術**の2つを紹介します。

グラブバケットの角度制御技術 (特許第5502160号)

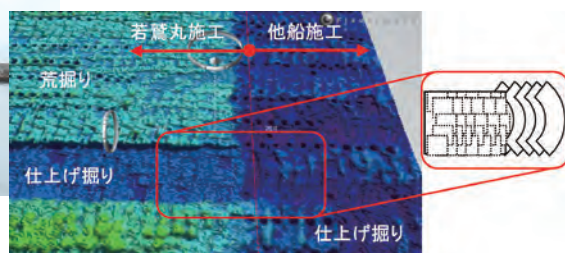
は浚渫有効幅において、グラブバケットの投入回数を減らすことができ、かつ水平方向の余掘り面積を低減できる技術です。

グラブバケットの余水削減技術 (特許第5531317号)

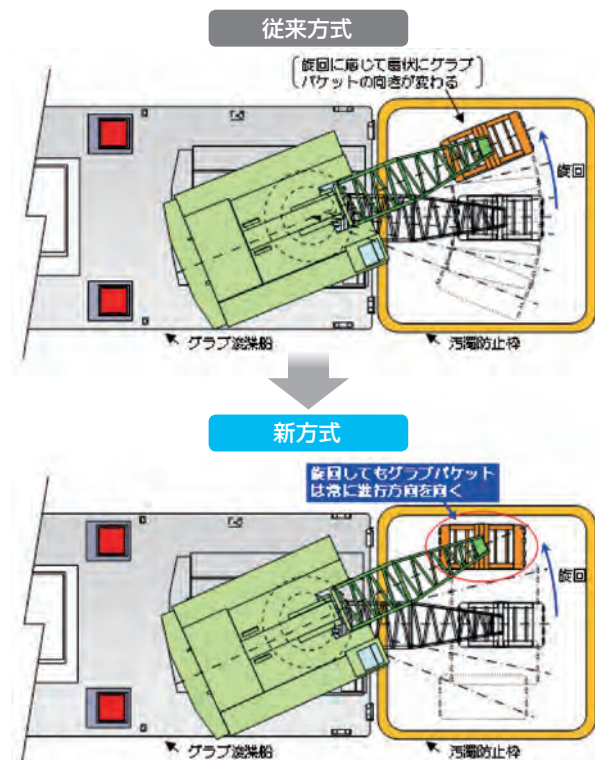
グラブバケット内に発泡スチロールや空気式防舷材を装着することでグラブバケット内の余水取り込み量を減らすものです。



グラブバケットの角度制御状況写真



浚渫の掘り跡(ナローマルチビーム測量による)



グラブバケット角度制御の有無による 比較



グラブバケット内部(余水削減装置未装着時)



グラブバケット内部に装着した発泡スチロール



開発にあたって

技術部機械課 金子 貴一

グラブバケットの角度制御技術により余掘り土量の低減がはかれ、また、グラブバケットの余水削減技術で余水取り込み量を低減することができます。今後も「若鷲丸」に搭載した環境に配慮したしくみで、環境に優しい浚渫を提案していきます。



仕事と育児の両立について (座談会)

WAKACHIKU 若築建設株式会社

特集 3



出席者(左側より)

半谷洋子(1997年入社 営業部管理課)：産休・育児休業取得

山本 徹(2004年入社 財務部財務課)：育児休業取得

土岐嗣美(2012年入社 八丁堀マンション建築作業所)：女性建築技術者

原 稔(1999年入社 技術部総合評価対策室兼技術研究所)：子のための看護休暇取得

明立真生(2015年入社 総務人事部人事課)：進行役

環境活動

技術報告

経歴

明立:皆さんの職歴と、現在の仕事内容を教えてください。

半谷:私は、1997年に入社し、建築本部の管理部に配属になりました。3年目に営業部に異動になり現在に至ります。主な仕事内容は、営業部員の出張手配や経費精算、顧客管理などのサポートを中心に、伺書や会議資料の作成、受注工事の集計業務などです。子どもは5歳と1歳で、二人とも女の子ですが、元気がよくて毎日がお祭り状態です(笑)。

原:私は、1999年に入社して、本社設計部に9年間在籍していました。その間1年間東京支店の現場に行きました。その後、名古屋支店の廃棄物処理場の大きな現場に3年ほどいました。その後、九州支店の現場に1年行きました。それが終わって、名古屋支店の総合評価対策室に4年間いました。2年前から本社技術部に所属しています。5年前に結婚して、子どもは男の子が二人おります。上の子が4歳、下の子が2歳になります。

山本:私は、2004年に入社して、名古屋支店に配属になりました。支店管理部の経理をメインに、総務、工務の仕事も同時に担当していました。8年弱で大阪支店に転勤になり、同じく支店管理部の経理を5年弱担当してい

ました。その後、今年の5月から本社財務部財務課に赴任しました。4年前に結婚し、子どもは男の子で現在9ヶ月です。

土岐:私は、2012年に入社してから一年半ほど本社建築部の設計設備課で設備設計を担当しました。その後はずっと現場です。横浜根岸のファミリータイプのマンション新築の現場に赴任し、一年半ほどおりました。その後、埼玉の高速道路の管制センター棟を造る工事を担当しました。その後は、都内の寮新築の工事を担当しました。その後応援で、駒込のマンション新築工事の現場に行きました。現在は8月盆明けに始まる八丁堀のマンションの現場にいます。私は独身です。

明立:私は2015年入社です。本社の総務人事部に属して、新卒採用を担当しています。その他には給与計算や社会保険関係、生命保険関係などを担当しています。私も独身です。「当社のワークライフバランス実現について」をテーマで話を進めていきます。まずは育児と仕事を両立されているお三方の話をお聞かせ頂きたいと思

います。半谷さんは、産休、育児休業を取られたのち復職されて、育児と仕事を両立されています。原さんは、何度か子の看護休暇を取られて、「積極的に育児をされている」と思っていました。また、山本さんは当社男性社員初の育児休業取得者です。皆さんのエピソードをお聞かせください。



半谷



明立

育児休業経験談

半谷:私は2012年に、第一子の時に1度目の育児休業を6ヶ月間取りまして、2度目は第二子の時に2015年から1年間の育児休業を取りました。第二子の育児休業から復職する時に、上の子と下の子が別の保育園に通わざるを得なくなり、自宅が遠方ということもあって、社規通りの就業時間では、子どものお迎えに間に合わないという状況になりましたので、「育児短時間勤務制度」を使わせて頂きました。「育児短時間勤務制度」では、9時半から4時半までの勤務時間ですが、保育所を2箇所まわらなければならず、退社して子ども達を保育園に迎えに行き帰宅するまで2時間10分かかる状況だったので、会社に事情をお話したところ、9時から4時15分までの勤務にして頂きました。

今年の4月から子ども達が同じ保育園になりましたが、まだ子どもが小さく手が掛かるということもあり、時間を変更して、継続して利用させて頂いています。私の場合は現実問題、この「育児短時間勤務制度」がなければ、仕事自体を続けられない状況だったので、この制度があったことは非常にありがたいです。

明立:会社の中では男性職員が多い中、半谷さんの部署では、理解や協力はスムーズに得られましたか。

半谷:私の場合、自分の事情を会社に説明し、相談することで、会社側もきちんと対応して下さいました。短時間勤務をすることによって、迷惑をかける面も出てくるのも事実ですので、周りの人に助けられていることに、感謝の気持ちをもってやっていかなければと強く思っています。

明立:復職時にブランクへの不安や、時短勤務で、仕事をこなせなくなる不安は無かったですか。

半谷:私の場合、2度とも同じ部署に戻ることができました。復職にあたり、1度目の育児休業後は、多少の不安はありましたが、2度目の際は1度目の経験もあったことと、休んでいる間も、部署の後輩から、メールで、イントラネットに掲載される社内の重要な情報を自宅に送ってもらったり、復職日が近づいた時には、1年間に業務内容の変更があった箇所を送ってもらい自分でシミュレーションしたりしましたので、スムーズに復職できたと思います。

逆に後輩は入社1年目と2年目の方だったので、「判らないことがあれば遠慮無く連絡して下さい」と伝えていました。そのようなやり取りをメールで行っていたので、部署の雰囲気や状況も分かって、後輩二人には助けもらったと、感謝しています。

山本:お子さんの保育園は簡単には決まらなかったのですか。

半谷:私の住んでいる地域は、全国でもワースト3に入る位の待機児童が多いところでした。初めは2人とも認可外の保育園でした。その後に認可保育園に移ることができました。

明立:当社においても女性社員が増えつつあり、これから結婚、出産をする方ももちろんいらっしゃると思いますが、建設業の特性もあって不安を感じている方も多いと思います。また就職活動を行っている学生さんとも話す機会が多いのですが、ここでも不安を感じている学生さんが多くいらっしゃいます。

ます。そのような方に向けて、結婚、出産のステージを目指すに当たってのアドバイスをお願いします。

半谷:子どもの急病などで、急に休まざるを得ない状況も出てきます。そのために、仕事は極力前倒しで行うように心掛けています。また、仕事と育児の両立は、朝起きてから寝るまで分刻みのスケジュールになります。自分の時間は通勤時間と昼休みくらいしかないので、自分自身の体調管理も大切になります。そのような状況の中、助けの手を差し伸べてくれる会社の方や、家族に対しての感謝の気持ちを持続して働かないといけなさと常々思っています。自分ひとりでは成り立ちません。感謝の気持ちを持って仕事をしていると、誰かが必ず助けてくれます。

男性の体験談 (育児休業、子の看護休暇)

明立:原さんは、子どもの看護休暇を取られていますね。

原 :私は今の技術部に転勤になって、上司の課長に同じような家族構成の方がいらっしゃいますが、「子の看護休暇制度があるからうまく活用するといいよ」との助言を頂きました。そこで「そのような制度があるなら使ってみようかな」と思いました。また、労働組合の代議員もやっていることから、「ワークライフバランスに資する様々な制度は知っておくのにいいチャンスだな」という思いもありました。我が家は子ども二人が小さいので、母親が子ども二人を病院に連れて行くのもなかなか大変で、これは実際に自分がやってみると本当に大変なことだと初めて理解できました。子ども二人が外で走り回ると危険なことも多く、親ひとりでは無理な面もあります。育児に関する休暇取



得について部長の理解も得られ、この制度を利用して助かっています。

明立:家庭での育児参加は積極的にやられているのですか。

原 :私の場合、結局は仕事に出て行くのですが、妻は専業主婦なので、何か無い限りは妻がこなしてくれています。但し、先ほど半谷さんから「自分の時間がない」との話がありましたが、専業主婦の場合、別の意味で全く自分の時間が無く、その大変さも見受けられるので、私が家にいるときは、育児を引き受けるように努力しています。

山本:奥さんだけの時間を作ってあげるのですか。

原 :そうですね。買い物に行ってもらったり、お茶する時間を作ってあげるようにしています。外でコーヒー飲む時間もない状



況もつらい様子で、働いている母親との比較ではないのですが、専業主婦が小さな子ども二人とずっと家にいるのも、気持ちの面で大変な時もあるようです。その気持ちは理解するように努力しています。

明立:理解してくれる旦那さんは素敵ですね。

半谷:土日の休みの時に、原さんがお子さん二人を公園に連れて行って、奥様の時間を作ってあげることはありますか。

原:そうですね。食事の支度の時間など、妻が忙しい時間を見計らって、近くの公園に子ども二人を連れ出して遊ぶことが多いです。子どもは大満足してくれます。子どもは電車と踏切の動きを見るのが大好きで、お腹が空くまで見ています(笑)。

半谷:原さんがお子さんを外に連れ出しているときに、奥さまは一息つけるかという、おそらく溜まっている家事をこなしたりして、本当に休みはないと思います。専業主婦は24時間、365日休みなしなので、私とは違うご苦労があると思います。

原:妻の本当の大変さは、私自身理解しているかといわれると、心底理解できてはいないと思います。

明立:山本さんは、育児休業中は、家事などやられていましたか。

山本:妻と話し合って私は家事を担当し、バリバリやっていました(笑)。

土岐:どのタイミングで取られたのですか。

山本:生後6ヶ月くらいのタイミングで取りました。

明立:育児休業中、お子さんとはどのように遊んでいましたか。

山本:息子は、ものを持って振ってみたり、右から左に、左から右に持ち替えたり、可愛いですよ。

土岐:育児休業中は、奥さまの家事を手伝ったりされたのですか。

山本:家事を手伝うというよりは、妻と役割分担を話し合って、家事全般を引き受けるようにしていました。育児以外は全てです。料理は、インターネットを見て作っていました。その通りに作ると絶対においしくできるのですよ(笑)。子どもは今離乳食ですが、集中して食べてくれないのです。口を開けた瞬間にスプーンを運ぶようにしてモグモグ食べています。

土岐:育児休業後のお休みの日は、家事はどうされていますか。

山本:土日とも、できる限り私が担当するように心掛けています。

一同:すばらしい。

明立:今後どのようにすれば、育児休業を取る男性は増えるのでしょうか。

山本:やはり前例をたくさん作ることだと思います。

明立:取り易さはどうでしたか。

山本:周囲にも理解して頂き、取りやすかったです。前例になれてうれしかったです。ただし、制度上ひと月前に申請しなければならないという仕組みは、まだ浸透していないですね。

明立:厚生労働省では、2020年に男性の育児休業取得率を13%、育児・家事関連時間(6歳未満の子どものいる家庭)を1日2.5時間など、具体的な数値目標も設定されました。それが可能になるとお母さん方にも非常にうれしい制度だと思います。また、結婚する世代にとっても、希望が持つことができ、家庭でも職場においても、ストレス低減につながる制度だと思います。

土岐:産まれた直後から、まとまった育児休業をお父さんが取れる状況になると、出産直後の身体が辛いお母さんにとってもううれしい制度でしょうね。

半谷:私は2度目の出産後はICUに入院し退院が遅れました。そんな状況下で、夫は育児休業を取得して、毎日お見舞いに来てくれたことが心強かったです。

出産は予定日も判っている、そのタイミングで男性が予め育児休業を取ってくれるといいのかもしれないですね。

明立:出産直後からの男性の育児休業取得は、制度の上手な運用方法といえるかもしれません。そのようなパターンをいくつか作って周知していくのも、制度利用促進につながるかもしれません。お三方の経験談を聞いて、土岐さんはいかがですか。

土岐:私の場合現場勤務ですが、将来の育児休業制度の取得は是非活用したいと考えています。現場勤務者の「短時間勤務制度」は前例がないので、そのような状況になった場合は、よく上長と相談し、例えば、しばらくは図面担当や現場の補助的な仕事を担当して、余裕ができてきたら工事担当に復帰することができればと思います。

半谷さんにお聞きしたいのですが、育児を含む家庭と仕事の両立をなさって、メリハリがあるとか、どのような気持ちですか。

半谷:何より充実感があります。家庭があって、子どももいて、仕事もさせて頂けることは、とても大変ではありますが、私自身が外に出て働きたいという性格なこともあって、今の状況は、精神的充実感が大きいです。土岐さんにも是非、家庭と育児、仕事との両立を目指して欲しいと思います。

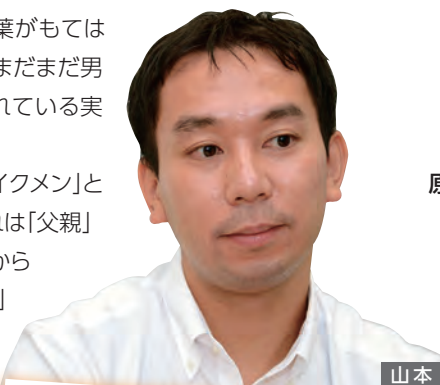
明立:建設業も男女関係なく働ける状況を目指しており、その意味でも育児においても男女関係なく育児参加できるように、当社も変わっていくことを期待しています。私自身、半谷さんの前例を見習っていただけたらいいなと思いました。会社も今年、子育てサポート企業として「くるみん」の認定も受けましたし、いい方向に向っていると思います。

土岐:半谷さん達の前例などがあって、育児休業制度も利用の幅が広がっているのですね。私も機会に恵まれて結婚して子どもができれば、会社のいろいろな制度を利用して、半谷さんのように仕事との両立を目指して、充実感を持って仕事を続けたいと思います。

山本:「イクメン」という言葉がもてはやされているのも、まだまだ男性の育児参加が遅れている実態なのでしょうね。

土岐:育児をする男性を「イクメン」というのではなく、それは「父親」というのだと、友達から聞いて「なるほどな」と思いました。

明立:男性の育児参加が当たり前にできるワークライフバランスが実現されて、「イクメン」という言葉自体が死語になる時代が来るといいですね。



山本



仕事と生活の両立

明立:話しは少し変わりますが、当社のワークライフバランスについて考えてみたいと思います。昨今、建設業界では、人手不足や、若年層の離職者の増加が問題になっています。それを解消するためには、業界挙げてのワークライフバランスの実現が大切だと言われています。当社においても、会社と労働組合が同じ問題意識を持って協力し、問題解決に向けて努力しているところですが、皆さんは、このテーマについてどのような意見、考えをお持ちでしょうか。

原:当社でも離職者が増えているのですか。

明立:若い世代は、仕事のミスマッチや、自分の時間が取れないなどの理由で辞める人は、ゼロではないですね。

土岐:私自身は辞めたいと思ったことはありませんが、イメージしていた状況と現実とのギャップで辞める人がいるのかもしれないですね。

明立:人間関係のストレスも原因の大きなものかもしれません。

社長が春闘で仰っていたように、「仕事は甘えあう訳ではなく厳しいものだけれども、そのバックに、アットホームで会話を中心としたチームワークを作ることや、疲れていたり、悩んでいるような仲間がいたら、みんなで声掛けをすること」は、とても大切です。

原:現場でひとりだと、孤立して、孤独な気持ちになって辞める要因になるかもしれません。

土岐:同業他社の同級生で、思い悩んで会社を辞めかけた方がいたのですが、その先輩が休日に息抜きに誘ってくれたり話を聞いてくれて退職を思いとどまり、今はとても楽しく働いている実例



土岐

を聞きました。やはり、悩みを聞いてくれる方の存在は大きいと思います。私はもともとストレスが溜まりにくい性格なのですが(笑)、日曜日は近所のテニスクラブでテニスをして友達もでき、気分転換にもなってリフレッシュできています。

原:現場が忙しいのは当たり前と思っているが、それを変えられるように皆が協力しないといけないと思います。魅力ある建設業にしていけるためには、やはり施工現場がきちんと休める状況、長時間労働にならない状況を構造的に構築していかなければならないと思います。そうしないと、同じものづくりの産業で、ワークライフバランスの実現が進んでいる製造業に追いつけないし、製造業の労働環境を越える魅力ある業界にするためには、時短と休暇はキーワードかもしれませんね。私は、生産性向上と同様、建設業が製造業から学ぶことは多いと考えています。

明立:私は人間関係で辛いと思ったときに、同じ部署の先輩に励まされたお陰で、気分を切り替えられたことがありました。やはり同じ職場の方のアドバイスや助けは大切だと感じています。

また、人によってその中身は違うと思いますが、息抜きの時間や自分の世界をキープできる働き方でないと、やはり若い世代はなかなか続かないのかなと思います。個々がリフレッシュのための休みを確実に取れる環境が、より浸透するといいですね。

私は、会社帰りにジムに通ったり、友人と食事を楽しんだり、独身者としてのワークライフバランスを実現しています。

半谷:「仕事」と「個人(家庭や育児)」の両方のバランスがとれることで、いい仕事、いい生活ができるようになり、生活レベルの向上にもつながると思います。また、そこで初めて自己実現も可能になると思います。当社はそれを真剣に考えてくれていると私は実感しています。

明立:今日は、育児休業や子の看護休暇の話しがメインで話しが盛り上がりました。同じ会社の中でも、職場環境は様々ですが、皆さんがそれぞれの職場でワークライフバランスを実現でき、より安全で、明るく、楽しい職場環境になり、更に生産性が向上していくといいですね。



山田 有香

(2016年入社)

工事概要を教えてください。

山田: 防波堤の延伸部分を作る為の基礎工事を行っています。

今現場で山田さん自身は、どのような仕事を担当していますか。

山田: 品質管理や写真の管理などを担当しています。

冬場は自然環境の厳しい現場ですが、女性の視点で、働きやすさはいかがですか。設備面等も含めてお答え下さい。

山田: 冬場の東北ということで、心構えはしていたのですが、やはり現場はとても寒いですね。反対に作業所内は暖房も効いていますし、足もとのヒーターや飲み物を温める保温庫もあり、快適な環境だと思います。

現場に出るときの防寒対策はどのようにしていますか。

山田: 八戸に赴任する前に東北の冬を経験された方から、「なりふり構わず暖かい恰好を下さい。その位寒いよ。」と、アドバイスを頂きました。発熱素材の服や防寒具など準備はしてきてのですが、東北の海の現場はとても寒いです。今もカイロを貼ってみたい、靴下を厚くしてみたり、いろいろ試行錯誤しています。

設備面で、改善したい点、改善して欲しい点がありますか。

山田: 女性用トイレは快適だと思います。広いですし、着替えができるスペースもあります。そこにもヒーターが設置されているので、いまのところ特に改善を希望する点はありません。改善して欲しい事はその都度所長に相談すると、対応して頂けています。足元のヒーターや保温庫などはその一例です。もちろん無茶を言ったらいけないと思いますが、親身に相談にのってもらえるのでとてもありがたいです。

女性の土木技術者は当社にはまだ少ないですが、山田さんが女性土木技術者として現場で心がけている点がありますか。

山田: 普段、女性だからというのはあまり意識せずに仕事ができています。そのような中で「女性がいると現場が明るくなるね」と言ってもらえることがあり、とてもうれしかったです。その意味でも心がけている点は、「いつも明るく挨拶をし、元気のよい対応をすること」です。明るい雰囲気のある現場づくりを目指しています。

所長をはじめ、先輩方はどのように指導してくれますか。

山田: 初めての東北での仕事と生活という事で、不安半分で赴任したのですが、東北での仕事のプロフェッショナルである荒川所長、木村さんのお二人が、東北での現場作業や生活はどのようにしたらいいかを、実体験を交えながら指導してくれます。

現場での仕事なので協力業者の方々と多くの接点が多いと思いますが、どのようにコミュニケーションをとっていますか。

山田: 毎日の挨拶はきちんとするように心掛けています。

時間があるときには、作業内容のことをお聞きしたり、ちょっとした雑談を交えながらコミュニケーションを取るようになっています。また、協力業者の方から「どこから来たの?」「寒さには慣れた?」など、話しかけてくださるので、この現場にも慣れることが出来たのだと思います。

仕事での苦労話や失敗談などがあればお聞かせ下さい。

山田: 大きな苦労や失敗はまだないですが、やはり土木技術者としての経験が浅いこともあるので、細かい事やこの業界での常識で判らないこともたくさんあって、いままで先輩を困らせてしまっていたのだと思います。そんなときでも丁寧に指導してくれます。



山田

荒川所長

木村

16 八戸港第二中央防波堤基礎2

工事概要

工事概要	八戸港第二中央防波堤の延伸部分基礎工事
工事場所	青森県八戸市八戸港港内
工期	2016年10月19日～2017年3月28日
発注者	国土交通省 東北地方整備局

仕事のやりがいや、仕事をする上で、うれしかった事などをお聞かせ下さい。

山田: 土木技術者としてこの仕事に就いてからは、「物作り」のために実際に現場に出ているということが自分の中ではとても楽しく、やりがいを感じています。他の仕事では近寄れないような重機や作業船を間近で見られるのも、うれしいことの一つです。

土木技術者を目指そうとしたきっかけを教えてください。

山田: 高校に進学する際に、普通高校よりおもしろそうだと思う工業高等専門学校を選びました。卒業時はあまり就職先がなかったということもあり、土木や建設とはまったく違う業種に就職し、事務の仕事をしていました。事務職に就いている間も興味はあったので、周囲の方に発信し続けてきたことから、たまたまご縁をいただいて若築建設に就職する運びになり、現在に至ります。はじめてから土木に強い志があったわけではありませんが、物作りや専門性の高い仕事に対する憧れは諦められなかったのだと思います。

休日はどのように過ごしていますか。

山田: せっかく八戸にいますので週二日の休みには、いままで住んでいた関東と東北との違いを楽しんでいます。ご当地グルメの食べ歩きや、銭湯巡りをする事が多いです。八戸ならではの場所やグルメなどを調べて出かけるのですが、荒川所長と木村さんが八戸に詳しく、観光スポットやグルメの情報を提供してくれますので、それを目指して休日に出かけます。



八戸は、お米も日本酒もお魚もおいしいところですね。ご当地グルメの「せんべい汁」※1や「八戸ラーメン」※2なども魅力的です。特に八戸ラーメンにはまっていて、よく食べに行きます。

※1 青森県八戸市周辺の郷土料理。せんべい汁専用の南部煎餅を用い、鶏や豚の出汁で、ごぼう、きのこ、ネギ等の具材を入れ、しょう油味でつくる鍋料理。

※2 地鶏と煮干でだしを取ったしょう油味のあっさりスープで、地元産の長ネギ・ニンニクなどの地元の食材を使う。麺は手もみ縮れ麺が特徴。

住まいはどうしていますか。

山田: 会社がアパートを借り上げてくれています。東北支店のほうが、設備の充実した物件を探してくれました。広くてとても暖かく、快適な住まいです。

今後、若築建設の土木技術者としてやりたいこと、目標としていることをお聞かせ下さい。

山田: 技術者としては、やはり早く一人前になりたいと思っています。いろいろな現場を経験してみたいです。

また、当社にはまだ女性の土木技術者が少ないので、女性技術者が増えるように働きかけていきたいと考えています。以前、母校の学生さんに現場を見学していただいたのですが、その際に出身校OGとして、会社と学校のパイプ役を担当させていただきました。当社に興味を持ってもらえるきっかけになっていたらうれしいです。

プライベートで、女性として何か目標とかやってみたいことがありますしたら、仕事との両立含めて教えてもらえますか。

山田: いまは大きな目標などはありませんが、充実して安定していると思います。このお仕事に就く前は、勤務時間が多くてプライベートな時間が少なくなるのでは?と考えていましたが、それなりに両立できています。

結婚や出産については、その時が来たら考えます(笑)。入社する際に会社の方から、「女性が結婚して子供を産んでも継続して働けるような環境を整えていく。」と言ってくださったことを、心強く感じています。

将来の仕事についてはどのように考えますか。

山田:せっかく就けた仕事ですので、できるところまで頑張っていきたいと思っています。まだ自分の将来にどのような可能性や選択肢があるかわからないので、まずは継続を目標にして、10年、20年とこの会社で働き続けていけたらと考えています。

女性の作業所長を目標にはされていないのですか。

山田:いまは所長になることを目標にはできていませんが、現場で頑張って結果としてそうなればいいなと思います。

内勤と現場ではどちらが良いですか。両方経験することによって仕事の見え方が違ってくとは思いますが

山田:内勤も現場もやらせて頂ける事はなんでもやってみたいです。今回の八戸勤務も、とても良い機会をいただけたと思っています。いろいろな仕事を経験し、仕事にもプライベートにも活かしていきたいです。

女性土木技術者を目指している方に伝えたいことはありますか。

山田:女性土木技術者を目指している方に関しては、学校で土木関連の勉強をしている方がほとんどだと思いますが、そうでない方も諦めずにチャレンジしていただきたいです。私の場合は専門の学校に通ってはいましたが、卒業後数年のブランクをはさんで、事務職からの転職で土木技術者としてスタートを切ることが叶いました。少しでも建設業に興味がある方ならば、建設会社や土木に関するお仕事も選択肢に入れて就職・転職活動していただきたいです。

特にいま建設業界は女性を活用しようとする流れがあるので、チャンスだと思います。建設会社の中でも、技術者、事務職、営業職と様々な職種がありますし、気軽に選択肢に入れてもらえればいいのではと思っています。

若築建設のお客様や株主様に対してうちの会社こんなに良い会社だとアピールできる場所は何かありますか？

山田:まだ入社してそんなに経っていないのですが、そんな中でも教えて下さる上司、先輩は皆さん良い方で、経験の少ない私が仕事で苦労していないか、職場環境はどうか、と心配して気にかけて下さっています。また「女性が現場で働くことは大変でしょう」とおっしゃる方もいらっしゃるのですが、当社は福利厚生の面でもとても良いと思いますし、女性だからという大変さや不便さをあまり実感していないので、働きやすい職場ということなのではないでしょうか。

女性技術者が活躍する



八戸港作業所2 総括所長 荒川 修

配属に際して、安全面、設備面を中心に、どのような点に気を付けましたか。

荒川:女性だからということでは特段はないのですが、海上の基礎工事で船を使うので、船の乗り降りがまず一番に心配した点ですね。その時点では大きな起重機船だけの作業だったので、そこまで心配することはなかったのですが、これから先、潜水船の作業になってきて、場合によっては潜水士船への乗り移りもあるので、その辺は気になっています。また検査などでも船に乗り移りますので、そういう時は少し心配です。

また冬場は風が強いことが多いのですが、それは女性だからというわけではありませんが、危険もあるので気を遣います。

設備面に関しては、改めて改善できるかとなると難しい面もあるのですが、その辺は気に掛けるようにはしています。

女性土木技術者が入ることにおいて、どのような教育を、本人および男性社員に行いましたか。



現場

荒川:教育面において、女性だから特別な何かが必要かといえそうですが、それは女性も男性もどちらも同じだと思っています。ただ、女性技術者と一緒に仕事をする経験が男性技術者にはあまりなかったもので、そちらの方が気になりました(笑)。

冬場は寒さの厳しい現場ですが、山田さんが実際にこの現場で働いている様子を見て、どのような感想をお持ちですか。

荒川:思ったより順応していますね。こちらに来る前に、本社からも東京支店からも、防寒対策をするようにという話がありましたが、そこは山田だからという訳ではなく、十分な物は揃えました。それ以上に山田の環境適応能力が高くて、自分自身でも工夫しており、特段心配することはないですね。

先ほど山田さんからは、「明るい挨拶を心掛けよう」という話があったのですが、所長からごらんになって、山田さんの明るさが、現場に変化をもたらした部分は感じられますか。

荒川:協力業者の方々とも明るくコミュニケーションを取っていますし、役所の監督補助の方と、立ち会いで何度も現場で会っていますけども、向こうのほうから笑顔で山田の方へ近づいて話しかけてくれます。それは私にはないので、その違いはあるのかなと感じます(笑)。また本人の性格も明るいので、皆さんすぐに打ち解けてくれます。

今日拝見した現場の女性トイレは、しっかりしたセキュリティもあり、綺麗ですね。

荒川:女性技術者の赴任ということもあり、快適トイレの設置を行いました。トイレとしても実際今まで見た現場の仮設トイレの中でも一番立派なトイレになっています。男性トイレもそうです。



女性土木技術者がいることで、現場の雰囲気はいかがですか。

荒川:協力業者の方の声掛けが優しく、しっかりコミュニケーションが取れています。

仕事が終わった後のコミュニケーションは、何かやられることはありますか。

荒川:いっぱいありました(笑)。去年11月上旬に赴任したのですが、間もなく協力業者さん交えての忘年会もやっていますね。いっぱい飲んで食べてくれます(笑)。

山田さんへ期待すること、励ましの言葉などがございましたらお聞かせ下さい。

荒川:たくさんの現場を経験して、多くの方としっかりコミュニケーションを取って、仕事を習得して欲しいです。中途入社ということもあり、周りの方は年齢相応の現場経験があるという目で見ているので、その意味ではしっかり努力して、早く仕事を覚えて欲しいと期待しています。

今後、当社の現場で活躍する女性技術者は増えていくと思いますが、今働いている女性技術者(土木、建築)と、将来当社で女性技術者として働くことを目指している学生さんや技術者の方に対して、アドバイスがありましたら、お願いします。

荒川:やはり、人見知りせず誰とでも話ができることが大切ですね。コミュニケーション能力が、現場での仕事を進めていくうえでは非常に重要だと思います。普段は無口でも構わないのですが、現場での仕事はチームワークなので、仕事上でのコミュニケーションができないと、円滑に仕事を進められないですからね。



いきいき職場の創造

社員が心身とも元気で、活き活きと個々の能力を発揮し、効率的に、楽しく働ける職場環境の整備を目指して、会社・労働組合・健康保険組合など、多方面から積極的に活動を行っています。

具体的には、育児・介護のための休業取得や、有給休暇取得の促進、社員の心身の健康サポートなど、ワークライフバランス(仕事と生活の調和)を促進し、働きやすい職場環境づくりに努めています。その結果のひとつとして、当社は2017年5月に、「子育てサポート企業」として、次世代育成支援対策推進法第13条に基づく基準に適合し、厚生労働大臣から「くるみん」^{※1}の認定を受けました。

また、新入社員の集合教育や階層別の研修制度、OJT制度、公的資格取得奨励の実施、自己申告制度、目標管理制度など、会社は社員ひとりひとりの適性や、家族の事情に配慮し、安心して、意欲を持って仕事に取り組める仕組みを整備しています。



※1 次世代育成支援対策推進法に基づき、一般事業主行動計画を策定した企業のうち、計画に定めた目標を達成し、一定の基準を満たした企業は、「子育てサポート企業」として、厚生労働大臣の認定(くるみん認定)を受けることができます。この認定を受けた企業の証が、「くるみんマーク」です。

ワークライフバランスの促進

仕事と、子育て・介護の両立を支援する

仕事と子育て・介護の両立が可能な職場は、社員が安心して個々の能力を最大限に発揮でき、仕事の効率を高めることができますと考えます。

また、ワークライフバランスをより進めることで、「生活の質の向上」と、「仕事の高効率化」の両立をはかっていきたいと考えます。



育児・介護支援制度の浸透をはかる

総務人事部

育児休業の制度は女性社員を中心に定着し、制度を利用して、育児と仕事を両立させている方が年々増えていきます。社員がライフスタイルを確立し、個々のモチベーションを高め、よりよい仕事を行う上でも、有益な制度です。また会社にとっても、大切な人材を長期的に雇用していく上で重要な制度であり、更には、社会に対しても、少子高齢化の解消に寄与できると考えます。

男性社員の育児休業、子のための看護休暇取得も少しずつですが浸透しており、今年は「くるみん」の認定を受けることができました。これらの制度は、継続的に男女問わず、また職域を問わず利用できる環境作りが大切だと考えます。そのためには、全社員への制度の浸透をはかることが重要です。

また介護支援制度も、介護と仕事の両立させるためには重要な制度で、この制度を今以上に浸透させ、気軽に活用できる職場を目指していきます。

女性社員の活躍

事務系のみならず、総合職技術系の女性社員も年々増加し、女性の活躍の場が広がっています。現場では女性用トイレや更衣室の設置をはじめ、女性技術者が働きやすい環境整備も進んでおります。当社は2020年度までに総合職採用に占める女性の割合を15%程度にする行動計画を策定しております。また、現場では女性用トイレや更衣室の設置をはじめ、女性技術者が働きやすい環境整備も進んでいます。



障がい者の雇用と活躍

障がいをもつ方が、障がいのない方と同様に、その能力と適性に応じて活躍できることをめざし、働きやすい環境を整え、障がい者の雇用促進をはかっています。

2017年6月時点で、障がい者雇用率は3.06%(法定雇用率2.0%)です。

▶ 健康の増進

社員とその家族の幸せと、活力ある職場づくりには、心身共に健康であることが重要であると考えます。そのために当社は、若築建設健康保険組合と協力して、様々な健康増進策に取り組んでいます。

若築建設健康保険組合では、病気の早期発見・早期治療に役立つ特定健診・健康増進に役立つ特定保健指導を実施し、人間ドック補助金支給、インフルエンザ予防接種補助金支給などを行っています。



スタンプラリー大会

また、積極的な健康増進のために、ウォーキング大会、体育奨励事業など、社員とその家族のための様々な健康づくりを支援しています。

メンタルヘルスにつきましては、医師や専門家によるカウンセリング体制を整えて、社員とその家族のメンタルヘルスの増進と、心の問題への早期対応につとめています。

総務人事部では、ストレスチェック制度を実施しています。これは、メンタル不調者の発生を未然に防ぐことと、ストレスの

高い職場については、仕事の質と量に見合った人員配置や、職場環境の改善、長時間労働等を是正し、働きやすい職場づくりを目指します。

▶ 若築建設労働組合

若築建設労働組合は、1946年(昭和21年)4月に結成され、70年の歴史があります。労働組合と会社はユニオンショップ協定を結んでおり、一定職級までの正社員全員が労働組合に加入しています。

今年度の労働組合のスローガンとして「挑戦と継続」～組合員一人一人が力を発揮し、ワークライフバランスを実現しよう～を掲げています。重点活動内容は、①安定した生活の維持及び仕事に対するモチベーションの維持向上をはかる、②仕事と生活の調和(ワークライフバランス)を実現するため、リフレッシュ休暇取得、統一土曜閉所、時短、メンタルヘルスケアを促進する、③会社側と意見交換・情報伝達の機会を多く持ち、現状の相互理解・把握に努め労使にて共通認識を持つ、④人的交流を活発にするために、支部の枠を越えたレクリエーション活動や組合研修を開催する、等です。

これらの積極的な労働組合活動により、社員全員が働きやすく、モチベーションを維持できる職場環境づくりにつとめています。



労使懇談会



四万十川ラフティング(大阪支部)



味の素スタジアムリレーマラソン(本社・関東支部)



ヤフオクリレーマラソン(九州支部)



ソフトボール&BBQ大会(九州支部)



新入社員歓迎ボウリング大会(本社・関東支部)



秋保芋煮・BBQ企画(東北支部)



現場視察(撫養港海岸)

地域社会とともに

品質環境方針のひとつに「社会貢献の推進」を掲げ、地域社会とのコミュニケーションを大切にし、防災活動や清掃活動などを積極的に推進しています。工事施工を円滑に進める上でも地域の皆さまとの交流を大切にしており、全国各地でさまざまな活動に取り組んでいます。

▶ 現場見学会

学生や近隣の方々などを対象とした現場見学会を多くの作業所で行っています。現場見学会では、事業目的や工法をわかりやすく説明したり、測量を実体験してもらうなど、建設業に対する興味を持ってもらい、また建設業の魅力を少しでも伝えていけるように工夫しています。

東京港を知ろう

／東京都2016年11月

東京営業所では、毎年、営業所管内の作業所が協力して現場見学会を行っています。2016年は大田区立大森東小学校の子供たちを招いて開催しました。最初に流通博物館で流通の歴史や仕組みについて学んだあと、東京湾内をクルージングして普段とは違った目線で東京湾の様子を見学しました。その後、ふ頭岸壁の耐震化整備工事の現場などを見学しました。



金沢港岸壁築造／石川県2016年10月～11月

金沢港の岸壁築造工事において、石川工業高等専門学校の学生を招いて現場見学会を行いました。見学会では、建設業への理解や関心がより深まるよう、港湾工事の施工状況を見学するとともに建設会社に関する説明等も行いました。また、国土交通省北陸地方整備局が主催する金沢港整備事業の見学会をサポートし、参加した学生に工事説明などを行いました。



現場見学



卒業生社員を交えた工事説明

伊万里港道路工事／佐賀県2017年2月

道路工事の作業所で小学生を対象とした現場見学会を行いました。道路ができて自分たちの街が変化していく様子を説明したり、建設業の仕事に少しでも興味を持ってもらえるよう、測量体験などを交えて行いました。



測量体験



▶ インターンシップ

2016年7月～9月にかけて、大学生、高専生を対象に全国の10作業所でインターンシップを実施し、16名の学生が参加しました。参加した学生からは、「建設業界をより深く理解でき、この業界で働きたいという思いが強くなった」「インターンシップに参加できたことは将来を考える上で意味があるものだった」「私もいつか技術者になってものづくりをしたい」などの感想が寄せられました。



測量実習



測量実習



現場見学(船上より)



作業打合せ

▶ 社会貢献活動

青い羽根募金

(公益社団法人)日本水難救済会による「青い羽根募金」は、水難救助のボランティア活動をささえるもので、当社は、2003年から全社を挙げて協力しています。また、募金活動だけではなく、作業所に「水難救済会支援自動販売機」を設置する活動も行っています。2016年度は、本社、名古屋支店、長崎営業所において、これまで続けてきた活動に対する感謝状をいただきました。



感謝状授与(本社)



感謝状授与(名古屋支店)



水難救済会支援自動販売機



募金箱

常滑市りんくうビーチ清掃美化活動(愛知県)

りんくうビーチは中部国際空港の対岸部に作られた人工海浜で、当社は海浜工事にたずさわりました。名古屋支店では社員と協力会社によるビーチの清掃活動を2005年から毎年行っています。2017年7月の海の日に、これまで続けてきた環境保全活動に対し、海上保安庁中部空港海上保安空港基地長様から表彰状をいただきました。



▶ 地域とのコミュニケーション

蛍光タスキの寄贈(鹿児島県)

作業所近隣の小学校や中学校に対し、街灯が少ない通学路での交通事故防止のために、通学時に着用する蛍光タスキを全校生徒に寄贈しました。



北九州マラソンへの協賛(福岡県)

北九州マラソンは北九州市の市制50周年を記念して2014年に開始され、現在は九州最大の人気レースとなっています。当社はサポーターズポンサーとして毎年協力しており、第4回は当社から10名が出場しました。



若松みなと祭り(福岡県)

若松みなと祭りは、当社発祥の地である北九州市若松区で毎年開催されている夏祭りです。郷土芸能など多くのイベントで盛り上がりますが、当社はカラオケ大会企業対抗戦に毎年参加しています。今年も例年通り賑やかな演目を披露して会場を大いに盛り上げました。



全国のCleanup活動



いなげの浜クリーン作戦 千葉県

いなげの浜は千葉市稲毛海浜公園にある日本初の人工海浜で、当社が施工にたずさわったことから、毎年海開き前に一斉清掃を行っています。2017年は協賛会社を含め146名が参加して行いました。1993年に始めたこの活動は今年で25回目の節目の年となりました。これまでに延べ4,242名が参加しており、長年にわたる活動が認められ、2014年には春の緑綬褒状をいただきました。



みやぎスマイルポートプログラム 宮城県

宮城県が管理する港湾や海岸の一定区域を、「スマイルサポーター」が定期的に清掃や美化活動を行っています。当社は、仙台塩釜港仙台区（臨港道路ふ頭5号線・6号線）を活動区域として、毎年2回清掃しています。



庄内川・新川クリーン大作戦 愛知県

国土交通省中部地方整備局や関係自治体の呼びかけで、伊勢湾、三河湾に流れ込む河川や海岸を清掃する活動が1999年から行われています。当社もこの活動に協賛し、庄内川下流部の清掃を毎年行っています。



リフレッシュ瀬戸内海

広島県・徳島県ほか

美しい海を守っていくために瀬戸内海沿岸部で毎年開催されている「リフレッシュ瀬戸内海」に広島県、徳島県など各地で多くの社員が参加して清掃活動を行っています。



大阪マラソン クリーンアップ作戦 大阪府

大阪マラソンの参加者や観客を「きれいなまち」で気持ちよく迎えるために行われた清掃活動に大阪支店の社員が毎年参加しています。



河川愛護清掃活動 福岡県

福岡県は、河川の清掃等を行う企業を支援する事業を行っており、当社は2009年から登録し活動しています。福岡市内を流れる須恵川の一部約500mを担当し、毎年2回、支店や作業所の社員数十名で清掃活動を継続して行っています。



